

令和6年度

シラバス集

埼玉県立高等看護学院

## 目 次

表紙	1
シラバス集目次	2
<b>&lt;基礎分野&gt;</b>	
論理学	4
人間工学	5
情報科学Ⅰ（看護と統計）	6
情報科学Ⅱ（看護にける ICT）	7
心理学	8
教育学	9
生活と文化	10
看護英語	11
いのちを愛する倫理原論	12
感性を育む人間関係論	13
自己と他者を繋ぐ人間関係論	14
健康を支える体育学	15
社会学	16
<b>&lt;専門基礎分野&gt;</b>	
解剖生理学Ⅰ	17
解剖生理学Ⅱ	18
看護形態機能学	19
生化学	20
栄養学	21
薬理学	22
微生物学	23
病態学Ⅰ	24
病態学Ⅱ	25
病態学Ⅲ	26
病態学Ⅳ	27
病態学Ⅴ	28
病態学Ⅵ	29
病態学Ⅶ	30
生命倫理	31
環境学	32
社会福祉・社会保障	33
関係法規	34
行動科学	35
安全論	36
<b>&lt;専門分野&gt;</b>	
看護学概論Ⅰ	37
看護学概論Ⅱ	38
共通基本技術Ⅰ	39
共通基本技術Ⅱ	40
共通基本技術Ⅲ	41
共通基本技術Ⅳ	42
日常生活援助技術Ⅰ	43
日常生活援助技術Ⅱ	44
日常生活援助技術Ⅲ	45
日常生活援助技術Ⅳ	46

診療の補助技術	47
臨床看護総論	48
地域と暮らし	49
地域・在宅看護論目的・対象論	50
地域・在宅看護論方法論Ⅰ	51
地域・在宅看護論方法論Ⅱ	52
地域・在宅看護論方法論Ⅲ	53
地域・在宅看護論方法論Ⅳ	54
看護と倫理	55
問題解決活用法	56
周手術期と看護	57
終末期と看護	58
薬物療法と看護	59
成人看護学目的・対象論	60
成人看護学方法論Ⅰ（生きるを支える看護）	61
成人看護学方法論Ⅱ（生活の再構築を支える看護）	62
成人看護学方法論Ⅲ（セルフケアマネジメントに向けて）	63
老年看護学目的・対象論	64
老年看護学方法論Ⅰ	65
老年看護学方法論Ⅱ	66
小児看護学目的・対象論	67
小児看護学方法論Ⅰ	68
小児看護学方法論Ⅱ	69
母性看護学目的・対象論	70
母性看護学方法論Ⅰ	71
母性看護学方法論Ⅱ	72
精神看護学目的論	73
精神看護学対象論	74
精神看護学方法論Ⅰ	75
精神看護学方法論Ⅱ	76
国際看護と災害看護	77
医療安全	78
看護研究	79
看護技術の統合	80
<b>&lt;臨地実習&gt;</b>	
基礎看護学実習Ⅰ	81
基礎看護学実習Ⅱ	82
地域・在宅看護論実習Ⅰ	83
地域・在宅看護論実習Ⅱ	84
成人・老年看護学実習Ⅰ	85
成人・老年看護学実習Ⅱ	86
成人・老年看護学実習Ⅲ	87
老年看護学実習	88
小児看護学実習	89
母性看護学実習	90
精神看護学実習	91
統合実習	92

授業科目	論理学	講師名	外部講師	単 位	1単位
				時 間 数	15時間
				履修年次	1年次前期
				授業形式	講義
科目目標	論理的に文を読解する力を身につけ、論理学の最も重要な基本事項を習得することを通じて、看護に役立つ論理的思考を養う。				
授業概要	学生への一方的な講義方式ではなく、随時課題プリントを配布し学生にそれを解いてもらうことにより学生も主体的に授業に参加できるような双方向的な授業をします。				
回数	授業内容			教育方法	
1	論理学の研究対象について、論理学の研究対象は「議論」です。「議論」とは何か？「議論のしくみ」はどのようなものか？			講義・演習	
2	真理値について、事実と一致している文とそうでない文があります。事実と一致している文を真、事実と一致していない文を偽と呼びます。真と偽のことを真理値と言います。文はどのようなときに真になるかという条件を定めたものを真理条件と言います。真理条件を見やすく表にしたのが真理表です。			講義・演習	
3	妥当な議論について、正しい議論のことを妥当な議論と言います。妥当な議論とはどのような議論のことか？真理表を利用すると、議論が妥当であるかどうかを判定できるようになります。			講義・演習	
4	妥当な議論を使って、その他のいろいろな議論の妥当性が判定できるようになります。その練習を行います。			講義・演習	
5	前回に引き続いて議論が妥当であるかどうかを判定する練習問題を解きます。			講義・演習	
6	どんな状況でも真になる文のことを論理法則と言います。論理法則であるかどうかは真理表で確認できます。論理法則である同値関係について説明した後で、このような同値関係を利用して議論が妥当であるかを判定する練習問題を解きます。			講義・演習	
7	前回に引き続いて練習問題を解きます。その後で、これまでのまとめ(試験の範囲や試験の出題形式の話を含む)をします。講義に時間的な余裕がある場合は補足説明として論理的な虚偽について説明する予定です。			講義・演習	
8	試 験				
評価方法	筆記試験 (100点)				
必携図書	「正しく」考える方法 晃洋書房				
参考図書	・野矢茂樹著『まったくゼロからの論理学』岩波書店 ・植原亮著『思考力改善ドリル』勁草書房				
その他					

授業科目	人間工学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	1 5 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	<p>身体の構造や機能の物理的な原則を学ぶ。これにより効率的な看護を行う基礎とする。人間工学は、姿勢身体構造に係る学力や作業場などが含まれる。近年、看護の現場では、医療機器、センサーの使用、パソコンの操作、インターネットなどが仕事の上で必要になっている。具体例をあげて練習として学ぶ。</p>				
授業概要	<p>過去の国家試験の中から講義に関係する出題の例を紹介する。看護の現場で人間工学が果たす役割について、在宅療法や介護施設、特に最新の大病院とクリニックなどをあげて説明する。タブレットもしくはノートパソコンを用いた看護技術として、看護データをエクセルを用いて解析を行う方法を学ぶ。また、問診表の作成技術としてグーグルフォームを学ぶ。身体機能の構造や機能に関しては、体の方向と断面についてその呼び名から始めて実際に看護場面での対応について学ぶ。具体的には、骨盤の向きについて仰臥時の頸椎に関して特に睡眠との関係を含めて解説を行う。看護監察の結果を報告書にまとめる技術を学ぶ。演習は6人前後で1つのグループを作って行うことで看護現場での共同作業の訓練をする。</p>				
回数	授業内容			教育方法	
1	過去の国家試験の中から講義に関する問題の例を紹介する。人間工学の基本を学ぶ。タブレットもしくはノートパソコンを用いた看護技術として、看護データをエクセルを用いて解析を行う方法を学ぶ。			講義・演習	
2	身体機能の構造や機能に関しては、体の方向と断面についてその呼び名から始めて実際に看護場面での対応について学ぶ。具体的には、骨盤の向きについて仰臥時の頭・頸部に関して学ぶ。問診表の作成技術としてグーグルフォームを学ぶ。			講義・演習	
3	患者の痛みと満足の調査法を学ぶ。まず、痛みや満足スケールを学ぶ。いくつかの実例を紹介する。			講義・演習	
4	(演習) クッションの特性について、体験と評価そして作図を行う。特性の違いを評価する。姿勢の調査姿勢の調査を行う。			講義・演習	
5	患者、療養者の生活支援のための人間工学を学ぶ。病室の患者の可動域について学ぶ。睡眠と寝具について学ぶ。点眼動作について患者の身体状況との関係を学ぶ。			講義・演習	
6	姿勢と健康に関係のある人間工学グッズを通して、人間工学の原理を学ぶ。枕の重要性とえらびかたについて述べたうえ、演習を行う。			講義・演習	
7	(演習) 仰臥姿勢 特に頭頸部と枕の関係を実際に体験する。データの解析法を学ぶ。			講義・演習	
8	試験				
評価方法	筆記試験 (70~80 点) 演習レポート (30~20 点) 筆記試験とレポートともに、イラスト (下手でも OK)				
必携図書	看護人間工学 2024 年版				
持参図書	図解エルゴノミクス入門 野呂影勇著 培風館 アマゾン				
その他					

授業科目	情報科学 I (看護と統計)	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	30 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義・演習
科目目標	統計や情報処理技術の基礎的知識と方法を学び、保健領域における統計的な見方や看護における情報収集能力を養う。				
授業概要	グローバルな視点から情報科学を概観し、情報の取り扱い方やモラルを学習する。 統計の授業では、基本的な統計処理について学習する。 また、演習ではエクセルとパワーポイントの基本的な操作を習得する。				
回数	授業内容				教育方法
1	ガイダンス ICT 倫理 P C の基本操作				講義・演習
2	個人情報保護、患者の権利と情報、情報の安全管理				講義
3	統計処理の基本				講義
4	データ分析・正規分布・推測統計①				講義・演習
5	データ分析・正規分布・推測統計②				講義・演習
6	データ分析・正規分布・推測統計③				講義・演習
7	データ分析・正規分布・推測統計④				講義・演習
8	データ分析・正規分布・推測統計⑤				講義・演習
9	データ分析・正規分布・推測統計⑥				講義・演習
10	データ分析・正規分布・推測統計⑦				講義・演習
11	データ分析・正規分布・推測統計⑧				講義・演習
12	データ分析・正規分布・推測統計⑨				講義・演習
13	データ分析・正規分布・推測統計⑩				講義・演習
14	データ分析・正規分布・推測統計⑪				講義・演習
15	試験				
評価方法	課題・筆記試験				
必携図書	系統看護学講座 基礎分野 統計学 (医学書院) 他に、授業ではプリントを配布する				
参考図書	数学が苦手でもわかる 心理統計法入門 (サイエンス社) 随時、紹介します。				
その他	他に、授業ではプリントを配布する				

授業科目	情報科学Ⅱ（看護における ICT）	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	医療現場で活用されている ICT (information and communication technologies:情報通信技術) を学ぶことで、医療現場における ICT リテラシーを高めることを目標とする。				
授業概要	医療現場でかつようされている ICT の実例を学習する。医療情報は機微な情報になるので、その取扱いと注意点及びプライバシー保護についての基本的な考え方を学習する。実習では、グループワークを通じて、ICT を活用した患者とのコミュニケーションのあり方について学習する。				
回数	授業内容			教育方法	
1	日本の医療現場における情報技術の遅れ 昨今、医療現場における ICT の利活用が促進されたとはいえ、新規技術への対応が遅れている現状を理解することで、今後のあるべき姿を考える。また、情報通信技術の基本として、インターネットはなぜつながるのか、メールはなぜ届くのか、といった ICT の基本を支える通信技術と共に、新しい情報処理技術について理解する。			講義	
2	情報セキュリティおよびプライバシーの保護と個人情報について 医療現場で取り扱う情報の価値と重要性を知り、どのように情報漏洩や不正利用から情報を守るか、具体的な方法を理解する。合わせて、一般的な個人情報と要配慮個人情報の違いを理解し、医療現場でのプライバシー保護について理解する。			講義	
3	医療現場における ICT 事例 現在使用されている ICT の具体的な事例紹介とその活用法を理解する。(VR を活用したオペ支援技術/ER での患者情報管理/患者の社会参画支援)			講義	
4	ヘルスケア・メディカル分野における ICT 事例 現在使用されている ICT の具体的な事例紹介とその活用方法を理解する。*ゲスト講師による講義や具体的なサービス等に触れる実習が実施される場合がある。			講義	
5	医療機関と患者のコミュニケーションについて 具体的なシチュエーション事例を元に、医療機関と患者のコミュニケーションにおける ICT の利活用とその際の注意点を、グループディスカッションを通じて考える。			講義 グループワーク	
6	看護師として医薬品開発に関わる～CRC の役割と、それを支える ICT～ 2020 年の新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、ワクチンや治療薬の開発の重要性が世の中に認知され「治験」という言葉が身近になった。ここでは医薬品がどのように世の中に出ていくのかを理解し、その中で医療機関において看護師資格を有する働き方の一つである治験コーディネータ (CRC: Clinical Research Coordinator) の役割について理解する。また、治験というプロセスにおいては、医療機関の情報が薬の申請資料に利用される。その際に用いられる、患者情報を収集/管理するためのシステムや情報技術について学ぶ事で、治験についての理解を深める。			講義	
7	医療・看護と ICT を考える 総括実習として、医療における ICT が果たす役割を考える。患者とその家族、医師/看護師/薬剤師/ケアマネージャ/地方自治体等、多くの関連する人たちが、ICT によってどのように繋がり、情報を共有する事で、良い良い医療の提供につながるかを考える。そのような日本の状況を踏まえ、医療現場での ICT 利活用が、今後どのような方向性に進むのか、日本と世界の状況を理解する。			講義 グループワーク	
8	試験				
評価方法	筆記試験 (80%) グループワーク活動状況およびレポート (20%)				
必携図書					
参考図書					
その他	講義資料は講義時に配布				

授業科目	心理学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時間数	30 時間
		実務経験		履修年次	1 年次
				授業形式	講義
科目目標	人間を理解するための一つ的手段として、心理学的知見を身に付けることにより、多面的な人間理解の視点を持てるようにする。				
授業概要	心理学は人間の行動を研究する学問である。そのため、患者に対応する看護の領域においてもその知見は応用が利くものである。また、日常生活の中にも知らず知らずのうちに理論が使用されているものも多い。ニュースや事件などの雑談にも心理学的見地からの説明を行い、学問的・世間的な興味を高め、視野を広げていく。				
回数	授業内容			教育方法	
1	人間のリズム：サーカディアンリズム・ウルイアディアンリズム ・インフライアンリズム			講義	
2	パーソナリティ：パーソナリティの定義 パーソナリティの余韻			講義	
3	1. 類型論			講義	
4	2. 特性論 3. 構造論			講義	
4	パーソナリティ検査 1. 質問紙法 2. 作業検査法 3. 投影法			講義	
5	エコグラムの実習 学習 1. 学習の理論			講義	
6	2. 技能学習 3. 社会的学習 4. 練習			講義	
7	記憶			講義	
8	発達 I 発達の理論			講義	
9	II 各発達段階 1. 胎児期 2. 乳児期 (1)			講義	
1 0	2. 乳児期 (2) 3. 幼児期 (1)			講義	
1 1	4. 幼児期			講義	
1 2	5. 青年期 (1) 青年期前期 (2) 青年期後期			講義	
1 3	6. 成人期 (1) 身体的変化 (2) 認知的様態の変化			講義	
1 4	7. 老年期 (1) 身体的変化 (2) 認知的様態の変化 (3) 老性自覚 (4) 死の問題 欲求の理論			講義	
1 5	試験				
評価方法	試験 (100%)				
必携図書	大石武信著 「ザ・ベーシック・サイコロジー これを知らなきゃ看護はできない心理学」 (サイオ出版)				
参考図書					
その他					

授業科目	教育学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時間数	30 時間
				履修年次	2 年次
				授業形式	講義
科目目標	自己教育の必要性を理解し、自己の成長が患者教育にダイレクトにかかわってくることを学び、患者教育の実施に向けて指導方法・評価を考えることができるようになる。				
授業概要	実習や、グループワークを通して、自主的に学ぶこと、工夫すること、相手の成長を援助していくことなどを経験してほしい。またロールプレイングや評価を実践することで、「患者自らが自己の可能性を生きようとすることを援助する教育」とは何かを学生自らが学んでいく機会にした				
回数	授業内容			教育方法	
1	教育とは、その人の可能性をのばす援助			講義	
2	自己教育…自己を知る—他者理解（患者理解）は自己の目をとおす為 （自己教育の出発点）自分の価値基準、好き嫌いを自覚することが必要			演習	
3	自己教育	マイシレット実習をとおして		演習	
4	自己教育	自己との対話（自分の可能性の発見）		演習	
5	患者理解	主観→客観（対象のありのままをとらえる）→適切な応答		講義	
6	患者教育と自己教育の関連			講義	
7	患者教育模擬	事 例 決 定		グループワ ーク	
8	〃			グループワ ーク	
9	患者教育模擬	パンフレット等 指導教材作成		グループワ ーク	
10	〃			グループワ ーク	
11	患者教育模擬	指導場面ロールプレイング、評価		グループワ ーク	
12	〃			グループワ ーク	
13	〃			グループワ ーク	
14	ふりかえり、教育方法・評価の必要性、教育の役割			グループワ ーク・講義	
15	試験				
評価方法	出席・平常点 100 点 患者教育模擬 100 点 試験 100 点 計 300 点→100 点満点に換算				
必携図書	患者教育のポイント				
参考図書					
その他					

授業科目	生活と文化	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	看護の基盤となる知識として、人間や環境を理解するための土台となる日本の地域の生活や文化について理解を深める。国際化社会を前提に、他の国や地域の異なる文化・価値についても、互いに尊重し合う態度を身に付ける基盤とする。今後確実に予想される、多様な文化的背景を持つ人々への看護実践機会の増加に向け、様々な価値観や異なる立場・慣習への対話的理解を基に、自己の対人関係の『型』への『こだわり』を超越した、柔らかいコミュニケーションにより実現される実践・活動の可能性について、見通しを持てるようになることを目指す。				
授業概要	広い視野で人々の生活と文化を捉え、歴史・風土・社会などの視点から多様な価値観について学習する。様々な事例を通じながら、自己とは異なる文化についての理解を深め、国際化に向けた視点についても学習する。思考のテーマは『理解できない相手を排除せず、異なる他者でも認め寄り添い、共に尊重し合い生きる価値・文化の探求』。自己の前提とする既得価値・文化を解体し、新自由主義的でも自己優先志向的でも見た目や体裁重視的でもない、『善き生活者たらんとする立場』の可能性を見つめる。				
回数	授業内容			教育方法	
1	多様な価値観は何故生まれるのか？ 人々の価値観や文化の形成過程について、主として「生活」の視点から捉える意味について学ぶ。「時代や歴史・風土や地域性により、特定の価値観や文化は、どのように形成されていくのか」を解く鍵に「多様性」を置き、差別や人権も含めた『生活者としての視点の広げ方』を学習する。			講義と演習	
2	『学ぶ』ことと『生きる』こと 『学ぶ』という行為を題材として、その生活場面での文化的意味を『生きる』ことの本質と対照しつつ考察する。題材には、途上国の小学生の学びの様子を用い、現代日本の自己の周囲に限定されやすい価値観・発想・思考の限界を、他文化圏の生活の有り様に向け拡張する。			講義と演習	
3	文化は地域や時代によって何故異なるのか？ 人間や社会における「文化」を規定しやすい要素とは何なのか、何故、様々な「文化」が生まれるのかを、歴史的・地理的（国境や地域社会の空間的）区切りの視点から考察する。			講義と演習	
4	『民族・人種・信仰』と『生活』 人々やその集団としての社会の生活側面を規定しやすい、民族・人種・信仰の観点から、生活基盤・生活の拠り所としての「文化」を分析する。			講義と演習	
5	多文化共生コミュニケーションの理解 異なる文化や価値観を持つ人々との共生に向けたコミュニケーションが重要となる社会情勢について、理解を深める。多様な立場や様々な価値観が、分断されず連帯し、対立せず包摂し合える社会はどのような『対話』の先に成立するのか。格差による「ヘイト」と「排除」の誘惑に乗らないコミュニケーションの価値と在り方を学ぶ。			講義と演習	
6	『働く』意味と働く『場の文化（組織体質・集団文化）』 『働く』という生活場面を手掛かりに、その『場』の文化的実体を考察する。働くという場に形成される『体質』や『文化』は、働く者に対しどのように作用するのかを、具体例を基に理解する。実際の看護場面を想定し、社会・組織・集団の中で働くという行為を通してなされる「文化を身に付ける」という職業人の在り方を、働く側ではなく看護対象の視点からみた功罪として学習する。			講義と演習	
7	『日常生活圏の文化性』と「自己決定」 療養の場としての『日常生活圏』の『文化性』について、患者の「自己決定」の観点から考察する。在宅での終末期生活の有り様を、個人と家族、人と時間、社会と人間の、それぞれの関係性の視点から把握し、そこにある構造を『文化』として捉える視点を獲得する。			講義と演習	
8	総括 生活と文化について、今後の看護に向けた視点で総括する。			総括	
評価方法	ペアワークへの取り組みや振り返りレポートの内容：80点（@20点×4回） 期末レポート：20点 ※ 期末筆記テストは行いません。成績は、上記の配点と評価基準により多面的・総合的に評価します。				
必携図書					
参考図書	明治学院大学教養教育センター・社会学部（編）『多文化共生を学び合う；配慮と偏見のはざままで』 かんよう出版、2018年、ISBN-10：4906902944 児玉真美（著）『安楽死が合法の国で起こっていること（ちくま新書 1759）』 筑摩書房、2023年、ISBN-10：4480075771				
その他	アクティブラーニングの理念を基にした「ペアワークとリフレクションの繰り返し」の方法による学び方により『主体的・対話的で、且つ一つ一つの知識が繋がる、実感を伴った深い学び』を目指す点が、本科目の学習方法の特徴になります。異なる他者を排除せず多様な価値観を包摂できる実践者への成長を目指し、ペアワークを通じた協働的対話・探求作業へ、積極的に取り組んでください				

授業科目	看護英語	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	3 年次
				授業形式	講義
科目目標	日常的な英会話を学び、視野の拡大とコミュニケーション能力を高めることができる。				
授業概要	英会話を通して、国際的な視野を広げ、多様なコミュニケーションの基礎とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	Introduction and get to know each other.			講義	
2	Don't worry - Giving encouragement			講義	
3	Don't worry - Hospital Departments			講義	
4	How may I help you? - Helping with registration at hospital			講義	
5	How may I help you? - Body Parts			講義	
6	How are you feeling? - Asking about feelings			講義	
7	How are you feeling? - Internal organs			講義	
8	Could you fill in this Medical questionnaire? - Filling in medical questionnaires.			講義	
9	Could you fill in this Medical questionnaire? - Diseases (internal medicine)			講義	
1 0	Take the elevator, please. - Giving directions in hospitals			講義	
1 1	Take the elevator, please. - Diseases and injuries			講義	
1 2	What are your symptoms - Asking about symptoms			講義	
1 3	What are your symptoms - Symptoms in the upper body			講義	
1 4	Where does it hurt? - Asking about pain. Symptoms in the lower body.			講義	
1 5	試験				
評価方法	筆記試験（本試験：60 点以上を合格 不合格の場合は再試験を実施し 60 点以上を合格とする） 成績評価は 100 点満点とし、A: 80 点以上 B: 70 点以上 C: 60 点以上 D: 60 点未満 A, B, C : 合格 D: 不合格 受験資格：当該科目の出席時間数が規定時間数の 2/3 以上				
必携図書	LIFESAVER Basic English in Medical Situations Macmillan Languagehouse				
参考図書					
その他					

授業科目	いのちを愛する倫理原論	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	看護に携わる専門家としての基盤となる「他者を慈しみ、“いのち”を愛する倫理観」が、自らにどのように内面化されていったのか、その源泉を意識化する作業を通し、自己に構築された倫理意識を確実にすることを目標とします。				
授業概要	<p>授業は、以下 3 つの実際の態度・能力が獲得されるように、構成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 能力 1 : バーナード組織論の「個人人格」と「組織人格」の観点から、自らの看護実践思想を、論じることができるようになること。</li> <li>* 能力 2 : 優生思想と 環境への適応の観点から、命令の実行者としての看護師の位置と、自己が計画する看護実践での配慮点を、説明できるようになること。</li> <li>* 能力 3 : 現代的な正義の多様性と パターナリズムの関連から、医療の権力性 と 暴力化の可能性を、分析できるようになること。</li> </ul> <p>学習ではいづれも、「心痛から逃げないで、自分の心や自らの今までの在り方とじっくり向き合い、主に倫理観を中心とした自らの在り方が、何を源泉として、どのように形成されていたのか？」を自覚し、「無自覚的・洗脳的に内在化された、標語のように表層的な理解に止まった倫理観から脱却し、看護に携わる専門家として、他者を慈しみ、他者のいのちを愛する倫理観を獲得すること」を目指し取り組みます。</p>				
回数	授業内容			教育方法	
1	「幼少期に発病することと支え合う想い」：「ソーシャライゼーション」と自己価値観の源泉 * 小児病棟での子ども同士のかかわりあいを題材に、人が社会的刺激（集団生活による抑圧や義務）に対する感受性をどのように身に付けるについて、自己に引き寄せて省察します。			講義・演習	
2	「病気はかからないに越したことはないのか？」：「ハビトゥス（身体化された文化・秩序）」と自分 * 他者と積極的に協働しようとする行動様式を、人は特定の集団・文化機構の中でどのように学ぶのかについて、それを『心地よくない出来事からこそ学ぶ』という観点から、分析します。			講義・演習	
3	「優生思想と自分」：「バーナード組織論」における『人格の二重化強制』と看護師の自己同一性 * ハンセン病回復者に対する断種手術の現実を題材にして、現代・世界に通底する優生思想と自分自身の現在の在り方との関連性について、点検します。			講義・演習	
4	「制度・システムの実行者としての自分」：『適応至上主義（ダーウィニズム・パラダイム）』がもたらす暴力 * かつてハンセン病患者の強制堕胎を看護師も担ってきた過去を題材に、自らが制度やシステムにより命じられた事柄の『実行者』となる意味と責任について、「いのちを守る立場」の看護師が陥りかねない局面から考察します。			講義・演習	
5	「臓器売買の売り手が途上国の貧困層になりやすいのは、仕方がないことなのか？」 * バングラデシュでの臓器の売り手の事情と、臓器ブローカーの在り方、臓器移植の実現に関わる法律家・医師など専門家の思考を題材に、「機械論的生命観」を基盤とした現代移植医療の価値前提を、問い直します。			講義・演習	
6	「人は臓器をどこまで取り替えたら、『同一なその人』ではなくなるのか？」：『替えが利かない』自分とは？ * カナダでの臓器の買い手の思考を手掛かりに、『自己の身体を自由に扱う権利』という観点から、「専門家・エージェントが依頼人の利益を最大化するように努力すると、付随して何が起きるのか？」を分析します。			講義・演習	
7	「科学技術の発達は、なぜ無批判に歓迎されやすいのか？」 * 出生前診断の医療技術の発達を前提に「それまでは存在しなかった患者・家族の新たな苦悩」に関する事例を題材にして、「医療技術の進歩に伴い更新されるべき自らの倫理観とは何か？」を省察します。			講義・演習	
8	『「いのちを愛する生き方」』は、如何なる心的装置を保てば、駆動・行為し続けられるのか？ * 看護師が、所属組織の『常識』へ自己を無批判に『適応＝同化』させることなく、組織文化の同意不能な点を見極め、組織による『人格の二重化強制』を拒絶するには、どのような看護師倫理を確立すべきなのかを考察します。			講義・演習	
評価方法	ペアワークへの取り組みと振り返りレポートの内容： 80 点（@20 点×4 回） 期末レポート： 20 点				
必携図書					
参考図書	竹内章郎(著) 『いのちと平等をめぐる 13 章；優生思想の克服のために』 生活思想社、2020 年、ISBN-10：491611230X 香川知晶(著) 『命は誰のものか；増補改訂版（ディスカヴァー携書）』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2021 年、ISBN-10：4799327291				
その他	アクティブラーニングの理念を基にした「ペアワークとリフレクションの繰り返し」の方法による学び方により『主体的・対話的で、且つ一つ一つの知識が繋がる、実感を持った深い学び』を目指す点が、本科目の学習方法の特徴になります。異なる他者を排除せず多様な価値観を包摂できる実践者への成長を目指し、ペアワークを通じた協働的対話・探求作業へ、積極的に取り組んでください。				

授業科目	感性を育む人間関係論	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	1) 学生間の交流を図り、クラスの間関係の早期形成を促進する。 2) 一人ひとりが平等の人間であることを知り、自己について考えることができる。				
授業概要	体験学習では、自分の感じ方やからだの動き方を意識することを通じて自己理解を深め、他者との関わりにおける相互性に注意を向け、どのように信頼を深めていくのかを探究する。				
回数	授業内容			教育方法	
1	オリエンテーション、自己肯定度質問紙 1			講義	
2	表現と思考 マインドマップ入門			実習 (体験学習)	
3	表現と理解 自己紹介、環境と人間関係			実習	
4	感覚の覚醒 自分のからだを感じてみる			実習	
5	自然との関わり 自然との対話			実習	
6	振り返り				
7	自他の関わり たまごは立つのか? → グループ発表			実習	
8	振り返り				
9	表現 群像			実習	
10	振り返り				
11	調身 動きを通して感じる、気づく、自己理解			実習	
12	与える受け取る 手当			実習	
13	振り返り				
14	与える受けとる 目隠し歩き 相互性理解 振り返り			実習	
15	まとめ 自己肯定度質問紙 2			講義	
評価方法	課題レポート、参加状況 レポート内容:体験学習で感じた事・考えたことについて1つ以上の実習を取り上げ、具体的に記述。タイトルを自分なりにつける。1200字程度。 表紙不要 1行目タイトル 2行目氏名 3行目より本文 パソコン:A4用紙 横書き40字×40行 文字サイズ10.5p 手書き:A4原稿用紙 鉛筆はBかペンを使用のこと。レポート用紙不可				
必携図書					
参考図書	「感性を育てる看護教育とニュー・カウンセリング」藤岡完治著 医学書院				
その他	・マインドマップ作成のため、カラーペンを用意(100均の7色程度の物) ・床に寝転がったりするため、1人用のシート、バスタオルなどを用意。				

授業科目	自己と他者を繋ぐ人間関係論	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	カウンセリングの理解と技法について学び、対象の受容と共感の必要性を理解する。 「聴く」こと、「共にいること」の意味を考えることを通して自分の生き方をふりかえり、未来へ踏み出す一歩を確実なものにしたい。				
授業概要	グループワークや体験学習を通して、自ら気づいたり、相手をあたたかく受けとったり、相手をわかっていったりしたい。そしてそのこと自体が、相手や自分やまわりにどのような影響を与えているのかを感じたり、考える機会にしたい。学ぶのは、あなた自身です。				
回数	授業内容			教育方法	
1	人間は一人で生きていない（存在論）。健康な人間関係			講義	
2	自分の存在は人に影響を与える。身近な人間関係、距離の問題			講義	
3	第一印象 自己紹介（患者さんと「はじめまして」）			演習 ロールプレイング	
4	カウンセリング理論（カウンセラーの態度的条件） 「聴く」			講義	
5	話し合い「がん患者 50 人の勇気」を読んで			グループワーク	
6	ことばによるコミュニケーション「報告・連絡・相談」			講義	
7	情報交換、話し合い「課題を解く」			グループワーク	
8	「我と汝」身心の健康「身心を開いて受けとる」、「観察する、看る」			講義	
9	自然散策			体験学習	
10	「からだにきいて心をととのえる」立居振舞（立つ） バランスのとれた休息（腹式呼吸）			体験学習	
11	「与える、受けとる」手「手当」			体験学習	
12	「共にいる」「顧慮・配慮」「信頼の形成」「ブラインドウォーク」			講義 →体験学習	
13	コンセンサス実習			グループワーク	
14	コンセンサス実習 リーダーシップ論、まとめ			グループワーク 講義	
15	試験				
評価方法	出席・平常点 ふりかえりの提出・内容（100 点） + 最終試験 100 点 計 200 点 →100 点満点に換算				
必携図書					
参考図書	『「聴く」こと』の力「待つということ」「身心一如のニュー・カウンセリング」				
その他					

授業科目	健康を支える体育学	講師名	外部講師	単 位	2 単位
				時 間 数	45 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	実技
科目目標	身体を動かすことで心身の育成を促し、集団活動の中で望ましい社会性を養う。				
授業概要	<p>本授業では、体育館で行なうスポーツ実技と、テント泊を含むキャンプ実習（1泊2日）を実施する。</p> <p>スポーツ実技では、運動する楽しさを大切に、一人の運動からチームでの運動に発展させる。</p> <p>キャンプ実習では、班活動・係活動を通じて学生が主体的に準備・実施に関われるようにする。</p> <p>キャンプでは、自然の中で仲間と過ごす楽しみを分かち合いながら、野外料理、野外ゲーム、キャンプファイアー、ネイチャー工作などを実施する予定である。</p>				
回数	授業内容			教育方法	
1	授業ガイダンス バドミントン① 基本の打ち方、ルール、シングルスゲーム			実技	
2	バドミントン② 発展した打ち方、ダブルスのペア決め ラージボール卓球① ルールとゲームの方法、ダブルスゲームの実際			〃	
3	バドミントン③ ダブルスでゲームを楽しむ、審判法 ラージボール卓球② ルールとゲームの方法、ダブルスゲームの実際			〃	
4	バドミントン④ ダブルスでゲームを楽しむ、審判法 ラージボール卓球③ ルールとゲームの方法、ダブルスゲームの実際			〃	
5	ソフトバレーボール① 新チーム作り 基本の練習、ゲーム体験			〃	
6	ソフトバレーボール② 基本の練習 ゲーム体験			〃	
7	ソフトバレーボール③ ゲーム体験（連係プレーを試みる）			〃	
8	ソフトバレーボール④ ゲーム体験（連係プレーを試みる）			〃	
9	キャンプガイダンス キャンプの目的と方法、班分け			講義	
10	キャンプの準備 班会議、係会議			グループワーク	
11	キャンプの準備 班会議、係会議			〃	
12	キャンプの準備 準備の最終チェック			〃	
13～17	教育キャンプ1日目			体験	
18～21	教育キャンプ2日目			体験	
22	キャンプまとめ			講義・グループワーク	
23	授業のまとめ			講義・グループワーク	
評価方法	出席状況、受講態度、課題への取り組みにより総合的に評価する。				
必携図書					
持参図書					
その他					

授業科目	社会学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	3 年次
				授業形式	講義
科目目標	人間生活の場である社会の仕組みや、家族・地域・職業労働をめぐる現状と課題について学び、社会的存在としての人間を理解する。				
授業概要	具体的な事例やデータを通して、社会の中の様々な現象や問題に触れてもらう。また、適宜、自分の考えをまとめ、お互いに共有できるような機会を設ける。				
回数	授業内容			教育方法	
1	社会とは／社会学とは			講義	
2	社会的行為			講義	
3	地位と役割			講義	
4	自己と他者			講義	
5	ジェンダーとセクシュアリティ			講義	
6	ラベリングとスティグマ			講義	
7	家族（1）			講義	
8	家族（2）			講義	
9	家族（3）			講義	
10	貧困・格差			講義	
11	医療・福祉（1）			講義	
12	医療・福祉（2）			講義	
13	医療・福祉（3）			講義	
14	感情労働			講義	
15	試験				
評価方法	試験（80点）、コメントペーパー（20点）				
必携図書	とくに指定しない。毎回、資料を配布する。				
持参図書	授業中に適宜紹介する。				
その他					

授業科目	解剖生理学 I	講師名	外部講師	単 位	2単位
				時 間 数	45時間
				履修年次	1年次前期
				授業形式	講義
科目目標	人体の正常な器官の構造を学び、それぞれの器官が人体の中でどのような役割を果しているかを理解する。学んだ知識が看護とどのように関わるかを考える				
授業概要	ヒトの体の成り立ちから、各器官の正常な構造について学ぶ。特に、骨格系と筋系、神経系の関係、血液を介した循環器系と消化器系、呼吸器系、泌尿器系の関係、生殖器系とホルモンの関係について理解する				
回数	授業内容			教育方法	
1・2	解剖とは？細胞・組織・器官・器官系(系統)、解剖学用語、骨格系：総論			講義	
3・4	骨の構造、骨、筋、神経の関係、神経系1：脊髄、脊髄神経と筋（上肢）			講義	
5・6	脊髄神経と筋（下肢）、神経系2：終脳・間脳・脳幹・小脳の概略、髄膜			講義	
7・8	神経系3：脳神経（嗅覚、視覚、聴覚、平衡覚を含む）、循環器系1：総論			講義	
9・10	循環器系2：心臓の構造、心音と弁の関係、上肢と下肢の動脈、脳の動脈			講義	
11・12	循環器系3：静脈、皮静脈と採血、血液、リンパ系			講義	
13・14	消化器系1：咀嚼とは？咀嚼筋、顎関節、歯、咽頭、食道、胃の構造			講義	
15・16	消化器系2：小腸、大腸の構造、消化腺の構造（肝臓、膵臓）			講義	
17・18	呼吸器系；鼻腔と副鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の構造			講義	
19・20	泌尿器系：腎臓、ネフロン、尿路（尿管・膀胱・尿道の構造）			講義	
21・22	生殖器系：男性生殖器と女性生殖器、性周期とホルモン			講義	
23	試験				
評価方法	筆記試験				
必携図書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院				
持参図書	日本人体解剖学 上・下巻（改訂20版）穂田真澄編著 南山堂2020年				
その他					

授業科目	解剖生理学Ⅱ	講師名	外部講師	単 位	2単位
				時 間 数	45時間
				履修年次	1年次前期
				授業形式	講義
科目目標	<p>看護師に求められるヒトの生理機能を学習する。生命維持の仕組みを、内部環境の恒常性の維持という視点から、それに関わる血液循環系、呼吸系、栄養補給系、排泄系、液性および神経性調節、生体防御を学び、種の保存の視点で、生殖と発生を、ヒトの動物としての機能として、運動系、感覚系、神経系を学ぶ。</p> <p>授業を受けるとき、分からないことがあればすぐに質問し、分からないままにしないことを希望する。</p>				
授業概要	生体の正常な機能についての知識を学ぶ。				
回数	授業内容			教育方法	
1・2	生命維持の概念、細胞の機能(第1、6章)			講義	
3・4	細胞幕の働き、情報伝達(第1、8章)			講義	
5・6	神経系、高次機能(第6、8章)			講義	
7・8	運動系、感覚系(第7、8章)			講義	
9・10	血液の生理、生体防御(第3、9章)			講義	
11・12	血液循環の生理(第4章)			講義	
13・14	呼吸系(第3章)			講義	
15・16	栄養補給(2章)			講義	
17・18	神経系、体液調整(第5章)			講義	
19・20	内分泌系(第6章)			講義	
21・22	内部環境の恒常性、生殖・発達と老化(第6、9、10章)			講義	
23	試験				
評価方法	筆記試験				
必携図書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院				
持参図書					
その他					

授業科目	看護形態機能学	講師名	専任教員	単 位	1 単位
		実務経験	専 任 教 員 (看護師)	時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義・演習
科目目標	看護師がからだをみるときの一つとして解剖生理学や病理、看護技術での生体の働きを生活行動からみる基礎を学ぶ				
授業概要	看護の対象を看護の視点で理解するために、①人の生理学的な機能②病理や日常生活行動からの機能、③体内でどんな機能を営み看護技術の理解に繋がるよう日常生活行動が分かるように解説していきます。				
回数	授業内容			教育方法	
1	看護師が観るからだ 生活行動			講義・演習	
2	恒常性を維持する (物質の流通)			講義・演習	
3	恒常性を維持する (調整機構)			講義・演習	
4	動く (姿勢 運動 基本行動) を考える			講義・演習	
5	動く (姿勢 運動 基本行動)			講義・演習	
6	食べる (食欲 食行動 味わう 嚥下 吸収ほか)			講義・演習	
7	息をする (息を吸う 息を吐く 内呼吸 外呼吸)			講義・演習	
8	トイレに行く (排尿 排便)			講義・演習	
9	話す 聞く (声を出す 聞く 言葉 )			講義・演習	
1 0	眠る ( 眠り からだのリズム)			講義・演習	
1 1	お風呂に入る			講義・演習	
1 2	日常生活行動 (入浴) から身体の機能を知る			講義・演習	
1 3	子どもを産む			講義・演習	
1 4	生きていることを身体の外から測定する			講義・演習	
1 5	試験				
評価方法	講義内容に関する試験によって評価します。				
必携図書	看護形態機能学 - 生活行動からみるからだ - 日本看護協会出版会				
参考図書	人体の構造と機能[1] 解剖生理 人体の構造と機能[2]生化学 医学書院 ケーススタディ 看護形態機能学 日本看護協会出版会				
その他					

授業科目	生化学	講師名	外部講師	単位	1 単位
				時間数	30 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	生体を構成する物質の種類とその代謝、および遺伝情報からタンパク質合成に至る分子生物学の基礎を学ぶ。				
授業概要	生命現象を理解するために、①我々ヒトがどのような物質からできているのか、②これらの物質がいかにして合成され分解されるのか、③それらの物質が体内でどんな機能を営んでいるのか、ということ化学の履修がなくても分かるように解説する。				
回数	授業内容			教育方法	
1	代謝の概要と酵素			講義	
2	糖質の役割と種類			講義	
3	糖質代謝			講義	
4	脂質の役割と種類			講義	
5	脂質代謝			講義	
6	タンパク質の構造			講義	
7	タンパク質代謝			講義	
8	核酸の構造			講義	
9	核酸代謝、ビタミンの種類と生理作用			講義	
10	ポルフィリン代謝			講義	
11	ホルモンの種類と作用機構			講義	
12	遺伝子の複製機構			講義	
13	遺伝子の転写と翻訳機構			講義	
14	国家試験過去問題演習			講義	
15	試験				
評価方法	講義内容に関する試験によって評価する。				
必携図書	人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	栄養学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	生命維持のための栄養的意義を学ぶことに重点をおき、病気の発生を予防する栄養や病気にかかった場合の栄養について学ぶ。				
授業概要	栄養とは生命維持のために必要な栄養素を摂取し代謝することです。そのため、食生活の乱れが病気の引き金となることがあります。逆に適切な食生活によって病気を緩和させることができます。この講義では、看護師が患者様の食事に関して医師や管理栄養士などと連携するために必要な事項を解説していきます。				
回数				教育方法	
1	食品と栄養素			講義	
2	栄養素の役割と食事摂取基準			講義	
3	栄養素の消化・吸収とエネルギー代謝			講義	
4	栄養状態の評価・判定			講義	
5	ライフステージと栄養			講義	
6	臨床栄養			講義	
7	国家試験過去問題演習			講義	
8	試験				
評価方法	講義内容に関する試験によって評価します。				
必携図書	人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	薬理学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	疾病の回復を促進するために薬物療法は重要な役割を果たしている。薬が効果を現すメカニズム（作用機序）を理解し、薬物療法を行う際に必要な基礎的な知識を学ぶ。				
授業概要	薬の名前を覚えるだけの講義にならないように、パワーポイントによる動画や DVD などを利用し、薬の効果をわかりやすく解説する。				
回数					教育方法
1	総論（1）：法令，薬物の作用（薬物受容体）				講義
2	総論（2）：薬物に影響を及ぼす要因，薬物の体内動態 1				講義
3	総論（3）：薬物の体内動態 2、服薬指導				講義
4	自律神経系作用薬（1）：アドレナリン作用薬、抗アドレナリン作用薬				講義
5	自律神経系作用薬（2）：コリン作用薬、抗コリン作用薬				講義
6	中枢神経系作用薬（1）：麻酔薬、催眠薬				講義
7	中枢神経系作用薬（2）：抗てんかん薬、抗パーキンソン薬、鎮痛薬				講義
8	中枢神経系作用薬（3）：向精神薬、抗認知症薬				講義
9	オータコイド：抗アレルギー薬、抗炎症薬、痛風治療薬				講義
10	循環器作用薬（1）：強心薬、抗不整脈薬				講義
11	循環器作用薬（2）：抗狭心症薬、抗高血圧薬、利尿薬				講義
12	血液系作用薬、呼吸器系作用薬、消化器系作用薬				講義
13	内分泌系作用薬、抗感染症薬（1）				講義
14	抗感染症薬（2）、抗悪性腫瘍薬				講義
15	試 験				
評価方法	筆記試験（多肢選択問題（MCQ）および論述式問題）				
必携図書	新訂版 クイックマスター薬理学 第3版、鈴木正彦著、サイオ出版 新訂版 パワーアップ問題演習 薬理学 第3版 鈴木正彦著、サイオ出版				
持参図書	NEW 薬理学改訂7版、田中千賀子他編、南江堂、2017. FLASH 薬理学、丸山 敬、羊土社、2018. 疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学				
その他					

授業科目	微生物学	講師名	外部講師	単 位	2単位
				時 間 数	45時間
				履修年次	1年次後期
				授業形式	講義
科目目標	眼に見えない微生物はウイルス、細菌、真菌、原虫、異常プリオンがあります。それぞれの微生物の性状を最初に理解することです。微生物感染様式には、空気感染、飛沫感染、エアロゾル感染、経口感染、接触感染、母児感染および動物（昆虫）媒介感染があり、感染様式別に予防法を理解し、自ら感染症にかからないように日々実践してもらいます。また、それぞれの起因微生物について特徴を説明できるようにします。				
授業概要	眼に見えない微生物はウイルス、細菌、真菌、原虫、異常プリオンがあり、その性状を理解する。また、微生物はそれぞれ感染様式が違い、予防法が異なる。様式別に起因微生物の特徴、感染予防法を解説する。常に身の周りに微生物が存在していることを確認してもらうように経口感染を起こす大腸菌とその殺菌法を実習することで理解を深める。実習後にはレポートを提出してもらい、レポート点を試験点数に上乘せする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	微生物とは！ 眼に見えない微生物での感染、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）			講義	
2	ウイルス総論と抗ウイルス薬			講義	
3	空気感染および飛沫感染を起こす麻疹ウイルス、飛沫感染を起こすインフルエンザウイルス他			講義	
4	飛沫感染を起こす、風邪の原因はほとんどウイルス感染症、RSウイルス、ライノウイルス、他			講義	
5	細菌総論、常在細菌叢、抗菌薬			講義	
6	空気感染および飛沫感染を起こす結核菌、飛沫感染を起こす百日咳菌、肺炎球菌、空気・飛沫感染予防策			講義	
7	経口感染（食中毒、感染型）を起こす細菌、カンピロバクター属菌、病原性大腸菌、ウエルシュ菌等			講義	
8	経口感染（食中毒、毒素型）を起こす細菌、ボツリヌス菌、黄色ブドウ球菌、セレウス菌、食中毒を起こす寄生虫			講義	
9	実習：大腸菌の検出 （各自大腸菌検出サンプルを用意、そのサンプルの大腸菌を殺菌後のサンプルも用意）			実習	
10	実習結果の判定：大腸菌コロニーの検出と殺菌効果の検証、レポート作成			実習	
11	経口感染（食中毒）を起こすウイルス、ノロウイルス、A型およびE型肝炎ウイルス、ロタウイルス、経口感染予防策			講義	
12	真菌総論、各論および抗真菌薬			講義	
13	接触感染を起こすウイルス、キスでうつるEBウイルス、性感染症（STI）で感染HIV、HPV、HSV、HBV他			講義	
14	STIを起こす細菌、トラコーマ・クラミジア、リン菌、梅毒トレポネーマ、STI 予防法			講義	
15	がんと関連のある病原体、HPV、HBV、HCV、HTLV-I、がんと関連のある細菌、ヘリコバクター・ピロリ			講義	
16	原虫総論、各論および抗原虫薬			講義	
17	母児（子）感染を起こす病原体、風疹ウイルス、サイトメガロウイルス他と母児感染予防			講義	
18	昆虫媒介性感染を起こすウイルスとリケッチア総論・各論			講義	
19	医原性感染を起こす病原体と予防法			講義	
20	滅菌と消毒、プリオン、感染症法、バイオハザード			講義	
21	病原体に対する免疫機構			講義	
22	病原体に対する免疫機構、感染症法、ワクチンの効果			講義	
23	筆記試験（95点）				
評価方法	筆記試験（95点）、実習レポート（1回提出で5点満点）				
必携図書	系看講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔4〕 微生物学 医学書院				
持参図書	看護学テキスト、微生物学・感染症学、中野隆史編集、南山堂 ナーシング・グラフィカ、疾病の成り立ちと回復の促進③、臨床微生物・医動物、メディカ出版				
その他	まんがでわかる感染症のしくみ事典、監修 忽那賢志				

授業科目	病態学 I	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	疾病（病気）とは生体の機能や構造が正常範囲から逸脱した現象であり、その原因や状態を疾病を分類・整理しながら理解することを目的とします。				
授業概要	講師側から一方的に話すのではなく、皆さんからの反応に合わせて進めていきたいと考えます。				
回数	授業内容			教育方法	
1	学生の皆さんはどんな病気を知っていますか？その病気を仕分けします			講義	
2	疾患の仕分けのルールを解説し、なぜ病理学が必要なのかをお話しします			講義	
3	先天性疾患の原因と成り立ち、代表的な疾患について・退行性病変の定義について			講義	
4	退行性病変の代表的疾患と分類について			講義	
5	循環障害の定義と代表的な疾患について			講義	
6	循環障害の代表的疾患の解説その 2			講義	
7	炎症の定義、病態、分類について			講義	
8	炎症の分類その 2			講義	
9	炎症の疾患の範疇としての感染症・免疫について			講義	
1 0	炎症の疾患の範疇としての感染症・免疫について その 2			講義	
1 1	腫瘍の定義・分類についての解説します			講義	
1 2	腫瘍の分類その 2			講義	
1 3	腫瘍、殊に悪性腫瘍についての具体例を挙げ、解説します			講義	
1 4	病理学総論についてまとめ、どういったことが重要なのかをお話しします			講義	
1 5	試験				
評価方法	試験と受講態度				
必携図書	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[2]病態生理学（医学書院）				
持参図書	基礎からわかる病理学（ナツメ社） 病理学入門（南山堂）				
その他					

授業科目	病態学Ⅱ	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	呼吸機能障害、循環機能障害、手術・麻酔療法に関する疾患の概念・病態・検査・治療・予後・疫学などについて学ぶ。				
授業概要	疾病の理解と健康回復のために行われる医療について理解し、看護学を学ぶ基礎とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	呼吸機能障害①			講義	
2	呼吸機能障害②			講義	
3	呼吸機能障害③			講義	
4	呼吸機能障害④			講義	
5	呼吸機能障害⑤			講義	
6	循環機能障害①			講義	
7	循環機能障害②			講義	
8	循環機能障害③			講義	
9	循環機能障害④			講義	
1 0	循環機能障害（外科）①			講義	
1 1	循環機能障害（外科）②			講義	
1 2	手術・麻酔療法①			講義	
1 3	手術・麻酔療法②			講義	
1 4	手術・麻酔療法③			講義	
1 5	試験				
評価方法	試験（呼吸機能障害 40 点・循環機能障害内科 30 点, 外科 10 点・手術・麻酔療法 20 点）				
必携図書	呼吸器：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器 循環器：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 手術麻酔：系看講座 別巻 臨床外科看護総論				
参考図書					
その他	講義順番は、講義日程により変更されます。				

授業科目	病態学Ⅲ	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	脳・神経機能障害、運動機能障害、腎・泌尿器障害に関する疾患の概念・病態・検査・治療・予後・疫学などについて学ぶ。				
授業概要	疾病の理解と健康回復のために行われる医療について理解し、看護学を学ぶ基礎とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	運動機能障害①			講義	
2	運動機能障害②			講義	
3	運動機能障害③			講義	
4	運動機能障害④			講義	
5	腎・泌尿器障害①			講義	
6	腎・泌尿器障害②			講義	
7	腎・泌尿器障害③			講義	
8	腎・泌尿器障害④			講義	
9	腎・泌尿器障害⑤			講義	
1 0	脳・神経機能障害①			講義	
1 1	脳・神経障害②			講義	
1 2	脳・神経障害③			講義	
1 3	脳・神経障害④			講義	
1 4	脳・神経障害⑤			講義	
1 5	試験			講義	
評価方法	試験（脳・神経機能障害 40 点・運動機能障害 30 点・腎泌尿器障害 30 点）				
必携図書	脳神経：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経 運動機能：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器 腎・泌尿器：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器				
参考図書					
その他	講義順番は、講義日程により変更されます。				

授業科目	病態学Ⅳ	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	消化吸収機能障害、内分泌・代謝機能障害、造血機能障害、免疫機能障害に関する疾患の概念・病態・検査・治療・予後・疫学などについて学ぶ。				
授業概要	疾病の理解（消化吸収機能障害、内分泌・代謝機能障害、造血機能障害、免疫機能障害）と健康回復のために行われる医療について理解し、看護学を学ぶ基礎とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	消化吸収機能障害①			講義	
2	消化吸収機能障害②			講義	
3	消化吸収機能障害③			講義	
4	消化吸収機能障害④			講義	
5	消化吸収機能障害⑤			講義	
6	消化吸収機能障害⑥			講義	
7	免疫機能障害①			講義	
8	免疫機能障害②			講義	
9	造血機能障害①			講義	
1 0	造血機能障害②			講義	
1 1	造血機能障害③			講義	
1 2	内分泌・代謝機能障害①			講義	
1 3	内分泌・代謝機能障害②			講義	
1 4	内分泌・代謝機能障害③			講義	
1 5	試験				
評価方法	試験（消化吸収機能障害 50 点・内分泌・代謝機能障害 20 点・造血機能障害 20 点・免疫機能障害 10 点）				
必携図書	消化吸収障害：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 系看講座 別巻 臨床外科看護各論 内分泌・代謝機能障害：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 造血機能障害：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器 免疫機能障害：系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症				
参考図書					
その他	講義順番は、講義日程により変更されます。				

授業科目	病態学Ⅴ	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	妊娠・分娩の異常、女性生殖機能障害、小児疾患に関する疾患の概念・病態・検査・治療・予後・疫学などについて学ぶ。				
授業概要	疾病の理解と健康回復のために行われる医療について理解し、看護学を学ぶ基礎とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	小児疾患①			講義	
2	小児疾患②			講義	
3	小児疾患③			講義	
4	小児疾患④			講義	
5	小児疾患⑤			講義	
6	小児疾患⑥			講義	
7	小児疾患⑦			講義	
8	妊娠・分娩の異常①			講義	
9	妊娠・分娩の異常②			講義	
10	妊娠・分娩の異常③			講義	
11	妊娠・分娩の異常④			講義	
12	妊娠・分娩の異常⑤			講義	
13	女性生殖器障害①			講義	
14	女性生殖器障害②			講義	
15	試験				
評価方法	試験（妊娠分娩の異常 40 点・女性生殖器 10 点・小児疾患 50 点）				
必携図書	系看講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕 女性生殖器 系看講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論				
参考図書					
その他	講義順番は、講義日程により変更されます。				

授業科目	病態学Ⅵ	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	老年病、聴覚機能障害、視覚機能障害、皮膚障害、精神障害に関する疾患の概念・病態・検査・治療・予後・疫学などについて学ぶ。				
授業概要	疾病の理解と健康回復のために行われる医療について理解し、看護学を学ぶ基礎とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	視覚障害①			講義	
2	視覚障害②			講義	
3	精神障害①			講義	
4	精神障害②			講義	
5	精神障害③			講義	
6	精神障害④			講義	
7	精神障害⑤			講義	
8	聴覚障害①			講義	
9	聴覚障害②			講義	
10	老年病①			講義	
11	老年病②			講義	
12	老年病③			講義	
13	皮膚障害①			講義	
14	皮膚障害②			講義	
15	試験				
評価方法	試験（老年病 30 点・聴覚機能障害 10 点・視覚機能障害 10 点・皮膚障害 10 点・精神障害 40 点）				
必携図書	系看講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編, 医学書院 系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔14〕 耳鼻咽喉, 医学書院 系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕 眼, 医学書院 系看講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕 皮膚, 医学書院 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 5 版, ヌーヴェルヒロカワ				
参考図書					
その他	講義順番は、講義日程により変更されます。				

授業科目	病態学Ⅶ	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	リハビリテーション療法、放射線療法の実際について学ぶ。				
授業概要	健康回復のために行われる医療について理解し、看護学を学ぶ基礎とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	リハビリテーションの概念 ①			講義	
2	リハビリテーションにおける障害の評価②			講義	
3	リハビリテーションを受ける対象の理解③			講義	
4	リハビリテーションの実際④			講義	
5	リハビリテーションの実際⑤			講義	
6	放射線医学とは、放射線の基礎知識①			講義	
7	放射線療法（放射線治療）②			講義	
8	試験			講義	
評価方法	試験（リハビリテーション 70 点・放射線療法 30 点				
必携図書	リハビリテーション：看護テキスト NICE リハビリテーション看護、 障害を持つ人の可能性とともに、南江堂 放射線療法：系看講座 別巻 臨床放射線医学、医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	生命倫理	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
		実務経験		履修年次	3 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	医療者の役割・義務・患者の権利・生と死などの諸問題について理解する。				
授業概要	生命倫理をめぐる問題の把握、なぜ、そのような問題が出てくるのか？なぜ問題がなかなか解決しないのか？など専門的な議論に偏らず広い視野で捉えられるようにする。歴史的な視点をおり込んで話してゆく。具体的な社会的出来事、最新の事情などを前提に話をすすめる。可能なかぎり、視聴覚を利用する。				
回数	授業内容			教育方法	
1	イントロダクション、生命の保障1 福祉・医療から考える			講義	
2	イントロダクション、生命の保障2 福祉・医療から考える			講義	
3	「優生学」という問題—生命の価値を考える①～②			講義	
4	「格差社会」のなかの生命倫理			講義	
5	医療従事者の視点からの生命倫理・医の倫理・社会の倫理			講義	
6	生命倫理の個別課題—臓器移植・遺伝治療 etc.			講義	
7	生命倫理の個別課題—治験・医療保険・ケアの倫理 etc.			講義	
8	試験				
評価方法	筆記試験（100点）				
必携図書					
参考図書					
その他					

授業科目	環境学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
		実務経験		履修年次	1 年次
				授業形式	講義
科目目標	社会における健康問題と、その要因としての人を取り巻く環境因子との関係を理解し、疾病の予防と健康増進を中心とした予防医学を理解・実践できる看護師の養成を目標としている。				
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衛生学・公衆衛生学の歴史と健康の概念を修得する。</li> <li>2. 予防医学・疫学・保健統計・人口静態を理解する。</li> <li>3. 人口静態と人口動態から死因統計と疾病統計を理解する。</li> <li>4. 食品保健・栄養・食中毒を理解する。</li> <li>5. 人の健康に影響をあたえる環境因子を理解する。</li> <li>6. 産業保健とその活動を理解する。</li> </ol>				
回数	授業内容			教育方法	
1	衛生学・公衆衛生学の歴史、健康の概念と予防医学			講義	
2	疫学と保健統計・人口静態統計			講義	
3	人口動態統計（死因統計）			講義	
4	人口動態統計（疾病統計）			講義	
5	食品保健・栄養（食事摂取基準・食中毒）			講義	
6	環境保健（公害・大気汚染・上下水道・廃棄物処理）			講義	
7	産業保健（労働基準法・労働安全衛生法・職業性疾患）			講義	
8	試験				
評価方法	筆記試験（100点）				
必携図書	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生 医学書院				
参考図書	国民衛生の動向				
その他	授業の前に、教科書を10分程度読むことを勧めます				

授業科目	社会福祉・社会保障	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次
				授業形式	講義
科目目標	人間の生存権を保障するための社会福祉について認識を深め、保健・医療・福祉の意義と活用方法を理解する。				
授業概要	具体的な事例を紹介しながら、社会福祉の制度や施策を分かりやすく講義する。				
回数	授業内容			教育方法	
1	現代社会と社会保障・社会福祉			講義	
2	暮らしと社会保障・社会福祉			講義	
3	社会福祉のしくみと社会資源①			講義	
4	社会福祉のしくみと社会資源②			講義	
5	地域福祉の推進			講義	
6	対象別にみた社会福祉① 子ども・家庭の福祉			講義	
7	対象別にみた社会福祉② 障害児・者の福祉			講義	
8	対象別に見た社会福祉③ 高齢者の福祉			講義	
9	生活保護			講義	
10	社会保険制度① 年金制度			講義	
11	社会保険制度② 医療保険制度			講義	
12	社会保険制度③ 介護保険制度			講義	
13	社会保険制度④ 雇用保険制度・労災保険制度			講義	
14	生活と福祉			講義	
15	試験				
評価方法	筆記試験（100点）				
必携図書	「ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障」 株式会社メディカ出版				
参考図書					
その他					

授業科目	関係法規	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験		履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	看護師として直面しうる法的問題の分析とその対処方法、看護師が負担しなければならないと言われている責任の類型と具体的内容を学ぶ。				
授業概要	健康を守るための保健・医療・福祉に関する諸制度を理解し、看護の位置づけや看護師の役割を学ぶ				
回数	授業内容			教育方法	
1	法の基礎知識			講義	
2	保健師助産師看護師法（1）看護師の業務			講義	
3	保健師助産師看護師法（2）業務独占			講義	
4	保健師助産師看護師法（3）免許制度と行政処分			講義	
5	保健師助産師看護師法（4）名称独占、守秘義務、身体拘束			講義	
6	保健師助産師看護師法（5）過去問題の解説			講義	
7	不法行為（1）故意・過失			講義	
8	医療過誤における過失（1）医療水準論			講義	
9	医療過誤における過失（2）説明義務違反			講義	
10	不法行為（2）権利侵害（違法性）			講義	
11	不法行為（3）因果関係			講義	
12	不法行為（4）損害			講義	
13	医療過誤における損害（延命利益侵害）			講義	
14	不法行為（5）違法性阻却事由、責任能力、時効			講義	
15	試験				
評価方法	筆記試験（100点）				
必携図書	系看講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法規 看護六法				
参考図書					
その他					

授業科目	行動科学	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	人間行動の理解や予測と制御を目的とした行動科学的視点や方法を理解し、看護への応用を可能にする。				
授業概要	ワークシート等を利用し、学生が主体的にかかわるようにしている。自己理解が他者理解を深める体験を心理検査等で提供する。				
回数	授業内容			教育方法	
1	行動科学の定義(行動の定義・行動科学挾義の定義・広義の定義・目的)			ワークシート・講義	
2	行動理解に客観性を持たせる工夫(観察・数値化)・危機と対処			ワークシート・講義	
3	対象把握に影響する自己理解、自己理解の方法			ワークシート・講義	
4	対象理解の視点と方法(意識と無意識・知能・性格・心理検査)			ワークシート・講義	
5	対象援助の方法(カウンセリング・遊戯療法・アートセラピー・タッピングタッチ)			ワークシート・講義	
6	狭義の行動科学から(行動の成立・変容・行動療法)			ワークシート・講義	
7	認知と行動(リフレーミング・認知行動療法)看護への応用(調査研究・事例研究)			ワークシート・講義	
8	試験				
評価方法	試験・ワークシート				
必携図書					
参考図書	心身健康科学シリーズ 行動科学概論 久住眞理監修 人間総合科学大学発行 系統看護学講座 基礎分野 行動科学 山田一郎編著他 医学書院				
その他					

授業科目	安全論	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
		実務経験		履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	<p>ヒューマンエラーや医療現場における危険について理解し、看護学生として安全を基盤とした具体的な行動がとれるように知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全に関わる用語を理解する。</li> <li>2 ヒューマンエラーについて理解する。</li> <li>3 患者にとっての安全・医療安全対策の基本的な考え方について理解する。</li> <li>4 医療安全に関係する看護倫理を理解する。</li> <li>5 組織と個人としての医療安全対策の基礎について理解する。</li> </ol>				
授業概要	<p>人間はエラーを起こすものであることを認識し、危機感を高め、共有することで事故を防ぐことができます。そのためには、日常生活に潜む危機的状況を理解し、根拠に基づいた具体的な行動がとれるようになるための学習をします。</p>				
回数	授業内容			教育方法	
1	<p>1 事故の発生の構造と用語の定義 1)用語の定義 2)医療安全の歴史 3)事故の構造 4)ヒューマンエラー</p>			講義 演習	
2	<p>2 ヒューマンエラーの理解と対応策 1)ヒューマンエラー体験 2)ヒューマンエラー防止のための対策</p>			講義 演習	
3	<p>3 医療事故の共有の意義 1)事故報告の意義 2)事故の背景の理解</p>			講義 演習	
4	<p>3 安全対策の考え方と具体的安全活動 1)病院における危機・危険 2)確認行動の有効性 3)患者の療養環境に潜む危険とその予防対策</p>			講義 演習	
5	<p>3 安全対策の考え方と具体的安全活動 1)発達段階における危機の理解 2)発達段階に合わせた安全行動 3)安全活動におけるコミュニケーション</p>			講義 演習	
6	<p>3 安全対策の考え方と具体的安全活動 1)安全文化と看護専門職としての責務 3)医療安全に関係する看護倫理</p>			講義 演習	
7	<p>3 安全対策の考え方と具体的安全活動 2) 組織的取り組み(リスク感性の向上、チームSTEPPS)</p>			講義 演習	
8	試験				
評価方法	筆記試験 (100 点)				
必携図書	<p>専門分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院 専門分野 看護の統合と実践 [1] 医療安全 医学書院</p>				
参考図書					
その他					

授業科目	看護学概論 I	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時間数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次
				授業形式	講義
科目目標	看護の基本となる概念（看護・人間・健康・環境・学習）や看護理論、歴史など、看護に共通する概念や基礎的理論を学び、看護の役割と機能を理解する。				
授業概要	看護を学ぶ初学者にとって、看護とは何かを深く考える機会となる授業である。F・ナイチンゲール、V・ヘンダーソンの看護論を中心に看護であること・看護でないことを考え、看護の対象である人間とはどのような存在なのか、健康と環境との関連、看護の歴史等についても、VTRやGWをとおして看護を考える授業です。 パーソナルポートフォリオを活用した自己紹介と未来（3年後）の自分の看護師としての目標を掲示します。				
回数	授業内容			教育方法	
1	「看護とは何か」を考え、これから学ぶ看護学への導入 ・看護って何？ ・どんな看護師を目指したいの？			講義・演習	
2	I 看護の理念、看護の定義 ・看護の原点 ・看護の理念と構成要素 ・看護の独自の機能			講義	
3	II 看護理論と看護実践 ・主な看護理論と概観 ・ナイチンゲールの看護論			講義・演習	
4	・ヘンダーソンの基本的ニードと看護実践 ・さまざまな看護理論とその特徴			講義	
5	VTR 「NHKスペシャルあなたの声が聞きたい」			講義	
6	III 看護の対象（人間とは） ・看護の対象としての人間 ・個としての人間の特徴・社会的存在としての人間			講義・演習	
7	IV 健康とは（人間が病むとはどういうことか） ・健康の定義 ・障害の定義 ・健康のとらえ方 ・健康と健康障害			演習	
8	IV 健康とは ・国民の全体像をつかむ生活と健康 ・一般の人々の健康関連行動 ・現代の家族とライフサイクル			講義	
9	V 人間を取り巻く環境 ・環境とは ・人間と環境の関係（社会の中で生活することの意味）			講義・演習	
10	VI 看護の歴史 ・看護の変遷を調べてみよう			演習	
11	VI 看護の歴史 ・看護の変遷の発表			講義・演習	
12	VII 看護の機能と役割 ・看護職の法的な規定 ・看護職の養成制度			演習	
13	VIII 看護とはなにか ・キラリ！看護のシゴト			講義	
14	VIII 看護とはなにか 私たちの考える「看護」について			講義・演習	
15	総括・試験				
評価方法	筆記試験（80点）、講義及び演習等の出席状況、提出課題等（20点）予定				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護史 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール 湯楨ます他訳：看護覚え書、現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン 湯楨ます他訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会				
参考図書					
その他					

授業科目	看護学概論Ⅱ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	15 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	1 看護の提供者や提供の仕組みを多面的に理解し、看護の果たす役割について考えることができる。 2 看護の提供のしくみのなかで、医療安全の質と保証についての基本となる考え方が理解できる。 3 看護倫理について理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決への取り組み等について考えることができる。				
授業概要	看護学概論Ⅰの看護とは何かの学びから、現在社会における看護師の役割と看護師の専門職業人としての倫理について学ぶ授業です。社会に貢献できる看護師になるために、現在社会が求める看護師像が描けるように、実践での経験を踏まえて講義をします。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 看護の提供者 看護職者の教育とキャリア開発 1) 看護基礎凶器 2) 継続教育 3) 専門看護師・認定看護管理者 4) 看護職者の教育とキャリア開発における今後の課題				講義
2	2 看護職者の養成制度の課題 1) 看護養成の場と仕組みに関する課題 2) 看護職者の「役割拡大」と「特定看護師(仮称)」の養成 3) 看護教員の育成と看護継続教育の保証				講義
3	3 看護の提供のしくみ 1) 現代社会と倫理 ①なぜ倫理を学ぶのか ②倫理・道徳・法 ③現代の医療・看護と倫理 ④職業倫理としての看護倫理 2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 ①患者の権利とインフォームドコンセント②現代医療におけるさまざまな倫理的課題				講義
4	5 看護の提供のしくみ 【看護をめぐる制度と政策】 1) 看護制度—看護サービスと看護職者にかかわる法制度 2) エラーを防ぐコミュニケーション (DVD) 3) 危険予知トレーニング 4) 看護業務の特性と医療事故				講義
5	6 看護の提供のしくみ【医療安全と医療の質保証】 1) 医療事故の要因と医療の質向上 2) エラーを防ぐコミュニケーション (DVD) 3) 危険予知トレーニング 4) 看護業務の特性と医療事故				講義
6	7 看護の提供のしくみ 【看護サービスの管理】 1) 看護サービス提供の場 2) 看護サービスの管理とは 3) 看護管理システム 4) 組織 5) リーダーシップ				講義
7	8 広がる看護の活動領域 1) 国際看護学とは何か 2) 健康と保健医療の世界的課題 9 看護概論のまとめ				講義
8	試験				
評価方法	筆記試験 講義等への出席状況				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院				
持参図書	新版 看護者の基本的責務—定義・概念／基本法／倫理 日本看護協会出版会				
その他	資料配布随時				

授業科目	共通基本技術 I	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義・演習
科目目標	対象理解のためのコミュニケーション技術と自己理解、他者理解をふまえた相互関係の重要性が理解できる。看護における教育・指導の必要性を理解できる。				
授業概要	看護の土台となるコミュニケーションの基礎をロールプレイングなどの演習をとおして学びます。開講中にコミュニケーション実習を挟むため、実習の振り返りも含めて患者との関係構築のためのコミュニケーションのあり方を考えます。また看護における教育・指導の必要性や基礎的な実践方法についてVTR 視聴も含めて学びます。				
回数	授業内容				教育方法
1	基礎看護学の構成 看護とは 看護技術の特徴				講義
2	コミュニケーションとは コミュニケーションの構成要素と成立過程				講義・演習
3	コミュニケーションの意義 コミュニケーションの種類 コミュニケーション過程に影響する因子				講義
4	医療における信頼関係とコミュニケーション 効果的なコミュニケーションの技法				講義・DVD
5	ミスコミュニケーションを避けるために 対人関係プロセスとしての看護 自己の振り返り プロセス レコード				講義
6	看護におけるケアリング 看護理論 (対人的相互理論) 情報採取の技術 説明の技術 アサーティブネ ス				講義
7	カウンセリング 看護における面接 援助時のマナーとコミュニケーション				講義・DVD
8	コミュニケーションに障害のある人々への対応				講義
9	プロセスレコード・ロールプレイング演習①				演習
10	プロセスレコード・ロールプレイング演習②				演習
11	基礎看護学実習 I 振り返り ロールプレイング③				演習
12	基礎看護学実習 I 振り返り ロールプレイング③				演習
13	教育指導 効果的な教育プロセス				講義
14	個別指導・集団指導の特性と適応 学習にかかわる諸理論				講義・DVD
15	総括・試験				
評価方法	試験：90 点 講義および演習の参加状況 提出物など：10 点				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院				
参考図書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院				
その他					

授業科目	共通基本技術Ⅱ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次
				授業形式	講義
科目目標	人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助を實踐できる。バイタルサインの重要性を理解し、正しい測定と観察を實踐できる。				
授業概要	療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境をアセスメントと調整について学び、ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換の實際について学ぶ。バイタルサインの正しい測定と観察方法を講義、看護實踐に活用できるよう技術演習を通し身に付けていく。				
回数	授業内容				教育方法
1	生活環境を整える 療養生活の環境 環境のアセスメントと調整 1)病室・病床の選択 2)温度・湿度				講義
2	環境のアセスメントと調整 3)病室の光と音 4)色彩 5)空気の清浄性と臭い 6)人的環境 病床環境のアセスメントと整備 1)ベッド周囲の環境整備 2)病床を整える				講義
3	ベッドメイキング				講義
4	ベッドメイキング確認演習				演習
5	— 臥床患者のリネン交換 —				演習
6					
7	— 環境整備 —				演習
8					
9	バイタルサインを観察する意義 体温の測定と観察				講義
10	脈拍の測定と観察 呼吸の測定と観察				講義
11	血圧の測定と観察				講義
12	バイタルサインの測定と観察				演習
13	バイタルサインの測定と観察				演習
14	確認演習：バイタルサインの測定と観察				演習
15	試験				
評価方法	試験、課題、確認演習、講義および技術演習での姿勢、提出物など				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版社 看護覚え書き フローレンス・ナイチンゲール 現代社 医学書院				
その他					

授業科目	共通基本技術Ⅲ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義・演習
科目目標	身体を客観的に根拠をもって観察でき、アセスメントできる。 フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識・技術・態度を習得する。				
授業概要	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの意義と目的、スクリーニング技術と器官系別・系統別にフィジカルアセスメントの基礎的な知識と技術を講義、技術演習をとおして学ぶ。				
回数	授業内容			教育方法	
1	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの意義と目的			講義	
2	スクリーニング技術①（視診・触診・打診・聴診）			講義	
3	スクリーニング技術①（視診・触診・打診・聴診）			講義	
4	スクリーニングの実際（身体計測）			演習	
5	腹部のフィジカルアセスメント			講義	
6	腹部のフィジカルアセスメント			演習	
7	呼吸器系のフィジカルアセスメント			講義	
8	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際			講義	
9	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際			演習	
10	循環器系のフィジカルアセスメント			講義	
11	循環器系のフィジカルアセスメント			講義	
12	循環器系のフィジカルアセスメントの実際			演習	
13	中枢神経系のフィジカルアセスメント			講義	
14	筋・骨格系のフィジカルアセスメント			講義	
15	総括・試験				
評価方法	試験、講義および技術演習での姿勢、提出物など				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護学技術 I 医学書院				
参考図書	系統看護学講座 専門基礎 1 人体の構造と機能[1]解剖生理学				
その他					

授業科目	共通基本技術Ⅳ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次
				授業形式	講義
科目目標	科学的根拠にもとづいた看護過程の基礎的な知識を学び、展開できる。記録と報告の方法が理解できる。				
授業概要	看護過程とは、健康上援助を必要とする対象との相互作用に基づいて行う看護上の問題解決過程である。問題解決のプロセスを学び、特に、対象のニーズを充足する過程を学ぶ。講義及びグループワークにより科学的根拠に基づく援助を考える。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 看護記録と報告 1) 看護における報告 2) 報告の目的・種類 3) 報告の方法、留意点 4) 実習における報告				講義
2	2 看護記録と報告 1) 看護記録とは 2) 看護記録の法的位置づけ 3) 看護記録の目的と機能 4) 看護記録のコンピューターシステム化 5) 記載・管理における留意点				講義
3	3 看護記録と報告 1) 看護記録の構成 (1) 基礎情報 (2) 看護計画 (3) 経過記録 (4) 看護サマリー				講義
4	1 看護過程展開の技術 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素 3) 5つの構成要素の関係性 4) 看護過程を用いることの利点 5) 看護過程の展開				講義
5	2 看護過程展開の技術 1) 問題解決過程と看護過程 ステップ1: 情報収集 1) 情報収集とは何か 2) 目の前のものを観察し言語化する				講義
6	3 看護過程展開の技術 ステップ1: 情報収集 1) 看護場面における情報とは 2) 情報収集の方法 3) 信頼性のある情報にするための条件 4) 情報収集の時期				講義
7	4 看護過程展開の技術 ステップ1: 情報収集 1) 看護的な視点を持つ情報 2) 看護的な情報視点を含めた情報収集の具体的な例証 3) 当校の「領域別看護の視点」 4) 情報の整理整頓 事例展開 実習記録: 基礎看護学実習Ⅱ実習記録 (情報、分析解釈) 配布				講義・ 演習
8	5 看護過程展開の技術 ステップ2: 情報の分析・解釈 1) 分析・解釈とは 2) アセスメント 3) 情報の分析・解釈の視点 4) 情報の分析・解釈の結論				講義・ 演習
9	6 看護過程展開の技術 ステップ2: 情報の分析・解釈 情報の分析・解釈 グループワーク				講義・ 演習
10	7 看護過程展開の技術 ステップ3: 全体像の描写 1) 統合とは 2) 統合: 「全体像の描写」のステップ 3) 全体像を把握する方法としての手順 (1) 手順1: 軸の設定 (2) 手順2: 関連図の作成 事例展開 実習記録: 基礎看護学実習Ⅱ実習記録 (関連図)、(全体像) 配布				講義・ 演習
11	8 看護過程展開の技術 ステップ3: 全体像の描写 関連図 グループワーク				講義・演習
12	9 看護過程展開の技術 ステップ3: 全体像の描写 1) 全体像を把握する方法としての手順 (1) 手順3: 全体像の文章化 ステップ4: 看護上の問題点の抽出・看護目標・期待される結果・ケアプラン 1) 看護上の問題とは 2) 看護上の問題点 3) 看護上の問題の挙げ方 4) 優先順位の決定 事例展開 実習記録: 基礎看護学実習Ⅱ実習記録 (看護上の問題点・看護目標・解決策・実施・評価)				講義・ 演習
13	10 看護過程展開の技術 ステップ4: 看護上の問題点の抽出・看護目標・期待される結果・ケアプラン 1) 看護計画の立案 2) 優先順位の決定 3) 看護目標の設定 4) 長期目標と短期目標 5) 目標表現 (評価の基準) 6) 看護目標の追加・修正				講義・ 演習
14	11 看護過程展開の技術 ステップ4: 看護上の問題点の抽出・看護目標・期待される結果・ケアプラン 1) 計画 (解決策) の立案 2) 解決策の記述 ①観察計画 ②ケア計画 ③指導/教育計画 ステップ5: 実践 1) 看護介入の実践 ステップ6: 評価 1) 評価の内容 2) 評価の視点				講義・ 演習
15	総括・試験				
評価方法	筆記試験 (60点)、講義及び演習の取り組み、提出物など (40点)				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学[2] 医学書院 しっかり身につく看護過程 黒田裕子 照林社				
参考図書					
その他					

授業科目	日常生活援助技術Ⅰ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	人間の活動、運動の意義を理解し、ボディメカニクスを考慮した体位変換、移乗・移送の援助を実践できる。安全・安楽の意義を理解し、技術を習得できる。				
授業概要	看護援助の基本となる姿勢や体位、身体の動かし方を学び、それらを活用し車椅子・ストレッチャーへの移乗、移動の看護技術を学ぶ。また、安全・安楽や感染防止を学び正しく実践できるように、手洗いの方法やガウンテクニック・罨法の技術を学ぶ。机上の学びだけでなく、看護実践に活用できるよう、技術演習を通して身につけていく。				
回数	授業内容				教育方法
1	姿勢を保つ・活動を整える：姿勢・活動・体位				講義
2	ボディメカニクス・体位変換				講義
3	体位変換の援助 演習に向けて				講義
4	体位保持の実際（体位変換・ボディメカニクスの活用）				演習
5	廃用症候群・褥瘡				講義
6	移乗・移送の援助の実際				講義
7	移乗・移送の実際（車椅子・ストレッチャーによる移送）				演習
8					
9	安全を守る技術：安楽の意義、安全を阻害する因子、安全確保の技術				講義
10	感染防止の技術：感染成立の条件、院内感染の防止、標準予防策、洗淨・消毒・滅菌				講義
11	安全を守る援助の実際 スタンダードプリコーションの実施 ガウンテクニックと滅菌物の取り扱い				演習
12					
13	事故防止の技術：医療事故と対策 安楽確保の技術				講義
14	安楽な援助の実際：罨法、苦痛の緩和、精神的安寧				演習
15	総括・試験				
評価方法	試験、課題、講義および技術演習での姿勢 体位・移送：60点（試験：50点 演習への参加状況：10点） 安全：40点				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護学技術Ⅰ・基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次
				授業形式	講義
科目目標	皮膚と粘膜の保護および清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、健康な生活を送るために必要な援助を実践できる。				
授業概要	看護技術の中心となる生活行動援助技術の原理・原則を学ぶ。特に、日常生活を健康的に営むうえで欠かすことができない衣生活や身体の清潔を維持するために必要な科学的根拠に基づいた援助技術を習得する。演習は、看護技術を受ける対象と看護技術を行う看護者との関係を考えつつ、それぞれの役割を体験する中で対象の立場に立って行動することを学ぶ。				
回数	授業内容				教育方法
1	清潔の意義、皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の効果、清潔行動に影響を与える因子と観察の視点、洗浄剤の利点と欠点				講義
2	清潔援助の方法（入浴・シャワー浴、全身清拭、洗髪、手浴、足浴、整容、口腔ケア）				講義
3	衣生活の意義、衣服の目的・病衣の条件、寝衣交換の方法				講義
4	清潔援助で使用する物品 寝衣交換				演習
5	清潔援助の実際（足浴）				演習
6					
7	清潔援助の振り返り（足浴） 全身清拭の計画立案				講義
8	清潔援助の実際（臥床患者の全身清拭・寝衣交換）				演習
9					
10	確認演習：臥床患者の全身清拭・寝衣交換				演習
11					
12	臥床患者の全身清拭・寝衣交換の振り返り 洗髪の計画立案				講義
13	清潔援助の実際（臥床患者の洗髪）				演習
14					
15	総括・試験				
評価方法	筆記試験(70点)、確認演習(20点)、課題・講義および演習での姿勢・レポートなど(10点)				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護学技術Ⅱ, 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院				
参考図書	フローレンス・ナイチンゲール 湯槇ます訳：看護覚え書 現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン 湯槇ます訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会				
その他					

授業科目	日常生活援助技術Ⅲ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	人の休息・睡眠の意義とそのメカニズムを理解し、必要に応じた休息・睡眠への援助方法を理解できる。食事・栄養の意義を学び、看護の視点から考えた効果的な援助を实践できる。人間の排泄を理解し、排尿・排便の援助を实践できる。				
授業概要	日常生活を振り返り、当たり前に行っている休息・睡眠・食事・排泄を意識することで、それらが、人の手にゆだねなければならない患者の苦痛を考え、具体的な援助方法が学べるように進めていく。				
回数	授業内容				教育方法
1	睡眠・休息の援助：睡眠の基礎知識 睡眠のアセスメント				講義
2	睡眠・休息の援助の実際				講義
3	食事援助技術：食事援助の基礎知識 食事のアセスメント 医療施設で提供される食事				講義
4	食事の援助：食事介助の方法、誤嚥について、口腔の清潔援助				講義
5	食事援助の実際：全介助を要する食事援助の演習				演習
6	排泄：排泄の意義・看護師に求められる基本姿勢				講義
7	排泄のメカニズムとアセスメント				講義
8	排便・排尿の援助（ベット上排泄の体験）				講義
9	自然に排泄を促す方法（摘便を含む）				講義
10	自然排便を促す方法（腹部マッサージ、温罌法）、浣腸				演習
11					
12	導尿、膀胱留置カテーテルによる排尿・陰部洗浄				講義
13	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入の実際・陰部洗浄				演習
14					
15	総括・試験				
評価方法	試験 講義および技術演習での姿勢、提出物				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版社 看護覚え書き フローレンス・ナイチンゲール 現代社 医学書院				
その他					

授業科目	日常生活援助技術Ⅳ	講師名	専任教員	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	15 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義・演習
科目目標	<p>患者に対して安全・安楽な技術を提供できる水準の知識及び技術を習得する。</p> <p>1 患者の症状に合ったフィジカルアセスメントができる。</p> <p>2 患者の状況に合った日常生活援助を計画し実施できる。</p>				
授業概要	<p>事例患者を理解し、患者に必要なフィジカルアセスメント及び日常生活援助を中心に実践力をつける授業である。課題学習、個人ワーク、グループワークを組み合わせ、患者の情報をアセスメントし行動計画を立案、実施する。シミュレーション学習では実践の振り返り（デブリーフィング）を行い、患者の回復過程を助けるケアになっているか、どうしたらよかったか等、安全、安楽な援助を具体的に示す。後期からスタートする領域別実習開始にあたり、学生が患者の症状や状況に関心を持ち、主体的に実践し学習を進める。調べてもわからないことは質問する、実施してうまくいかない点は、自ら練習計画を立てて技術習得を目指すという実習には欠かせない PDCA サイクルを生かした能力を身につける。個人の知識及び技術の習得状況は、看護技術を支える要素に従い技術確認試験で確認する。</p>				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 事例患者の理解と看護 1) 授業概要説明 2) 事例提示 3) 情報整理			講義	
2	<p>2 事例患者に必要なフィジカルアセスメントとその看護技術</p> <p>1) 事例患者に必要なフィジカルアセスメントについてグループで共有</p> <p>2) 行動計画の追加・修正</p> <p>3) 情報整理から事例の解釈</p> <p>4) 事例患者に必要なフィジカルアセスメントの実践（シミュレーション学習①）</p> <p>5) 実践の振り返り（デブリーフィング）</p>			演習	
3	<p>3 事例患者に必要なフィジカルアセスメントとその看護技術の実践</p> <p>方法：学生はペアで看護師、患者役割を担う。1 人 15 分で技術確認を行う。</p> <p>学生観察者は技術確認表に従い技術確認を行う。</p>			技術確認	
4	<p>4 事例患者に合った日常生活援助とその看護技術の実践</p> <p>1) 事例患者に合った日常生活援助についてグループで共有</p> <p>2) 行動計画の追加・修正</p> <p>3) 情報整理から事例の解釈</p> <p>4) 事例患者に合った日常生活援助の実践（シミュレーション学習②）</p> <p>5) 実践の振り返り（デブリーフィング）</p>			演習	
5	<p>5 事例患者に合った日常生活援助とその看護技術の実践</p> <p>1) 患者に合った日常生活援助の実践（シミュレーション学習③）</p> <p>2) 実践の振り返り（デブリーフィング）</p>			演習	
6	6 習得状況確認			技術確認 試験	
7	方法：学生はペアで看護師、患者役割を担う。1 人 50 分で技術確認を行う。担当教員は確認表に従い評価する。				
8					
評価方法	出席・参加状況・提出物（20 点）技術試験：フィジカルアセスメント（10 点）日常生活援助技術（70 点）提出物はファイル提出により確認する。ファイルの管理についてはその他参照。				
必携図書	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 フィジカルアセスメントガイドブック				
参考図書	看護形態機能学 実習要綱				
その他					

授業科目	診療の補助技術	講師名	専任教員 外部講師	単 位	2 単位
		実務経験	専 任 教 員 (看護師)	時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	看護師の業務の一つである、診療の補助を安全に実施するために、診療の補助に必要な知識や技術、看護師の役割を講義、演習を通して学びます。演習は、モデル人形を使い、皮下注射や筋肉注射、点滴静脈注射の実際を、学生同士で採血の模擬体験をします。演習をとおして検査を受ける患者の心理の理解と医療事故防止を考え、安全・安楽に診療の補助ができるよう進めていきます。				
授業概要	検査の意義や方法と看護師の役割と実際の援助について学ぶ。薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける患者に必要な援助を実践できる。包帯法を実施できる。医療用機器の原理と実際が理解できる。				
回数	授業内容				教育方法
1	検査・治療における援助：診察・検査時の看護師の役割				講義
2	検体の採取とその取り扱い（尿・便・血液） 検査時の看護（X線撮影、CT、MRI、核医学検査） 生体検査、胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺				講義
3	創傷の管理：包帯法				講義・演習
4	薬物療法：与薬に関する基礎知識 薬剤の取り扱い 与薬法（経口、経直腸、吸入、注射、塗布、点眼、点鼻）				講義
5	点滴静脈注射の実際と管理				演習
6					
7	創傷の管理：創傷の分類				講義
8	医療用器具の原理と実際				講義
9	ME機器の取り扱い(輸液ポンプ・シリンジポンプパルスオキシメーター・人工呼吸器) 講師 中島先生				講義・演習
10					
11	皮下注射・筋肉注射の実際				演習
12					
13	採血の実際				演習
14					
15	総括・試験				
評価方法	試験、講義および技術演習への参加状況、提出物など				
必携図書	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3]医学書院 臨床看護学総論 基礎看護学[4]医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
持参図書					
その他					

授業科目	臨床看護総論	講師名	専任教員	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義・演習
科目目標	各期の患者の特徴に対し、看護の目標があり看護援助に繋がっていくことが理解できる。また演習を通し学生でも実施可能な一時救命処置を身につけることができる。				
授業概要	経過に基づく患者の看護を学び、各期に共通する主要症状の看護を学ぶ。治療・処置を受けている患者の看護を学び、急性期初期の処置を身につける。				
回数	授業内容				教育方法
1	経過に基づく患者の看護：経過とは				講義
2	急性期における看護				講義
3	慢性の経過をたどる患者の看護				講義
4	リハビリテーション期における看護				講義
5	ターミナル期における看護				講義
6	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護（ケーススタディー）シミュレーション				講義・演習
7					
8	循環に関連する症状を示す対象者への看護 （血液循環を促す援助、心臓の負荷を軽減する援助）				講義
9	主要な症状を示す対象者への看護 （呼吸、循環、栄養や代謝、排泄、活動や休息、認知や知覚など）				講義・GW
10	主要な症状を示す対象者への看護 （呼吸、循環、栄養や代謝、排泄、活動や休息、認知や知覚など）				GW
11	主要な症状を示す対象者への看護 （呼吸、循環、栄養や代謝、排泄、活動や休息、認知や知覚など）				発表
12	主要な症状を示す対象者への看護 （呼吸、循環、栄養や代謝、排泄、活動や休息、認知や知覚など）				発表
13	救急法 BLS				演習・DVD
14	救急法 心肺蘇生法 AED の実際				
15	試験				
評価方法	試験(95点) 課題内容(5点)				
必携図書	系統看護学講座専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	地域と暮らし	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30時間
				履修年次	1年次前期
				授業形式	講義・演習
科目目標	1 学院の立地する地域（埼玉県）を理解し、そこでの人々の暮らしを理解する。 2 暮らしが健康に与える影響を理解する。				
授業概要	看護の対象を、療養者を含めた地域で生活する人々であると捉え、個人・家族の健康や暮らしを支援するために講義、フィールドワークを通し、生活の基盤である「地域」を理解し、「暮らし」を考える。				
回数	授業内容			教育方法	
1	さいたまの暮らし・環境 1) 日本の現代史・埼玉の自然と歴史 2) 埼玉県に住む人々の暮らしと習慣			講義	
2	3) 埼玉県産業と経済活動 4) 埼玉県疾病の特徴と保健活動			講義	
3	暮らすということ 1) 子供を産み育てる			講義	
4	2) 学ぶ 3) 働く 4) 病を治す			講義	
5	5) 老いと共に生きる 6) 最期を迎える			講義	
6	支えあって生きるとは 1) 家族 2) 仲間			講義	
7	3) 近隣の人々 4) 学校や職場			講義	
8	5) 支えあい			講義	
9	地位の生活環境が健康に与える影響 1) 文化的環境 2) 社会的環境 3) 自然環境			演習	
10	フィールドワーク①オリエンテーション			講義	
11	フィールドワーク②事前準備			グループワーク	
12	フィールドワーク③グループで地域へ			フィールドワーク	
13	フィールドワーク③グループで地域へ				
14	フィールドワーク④まとめ・発表			グループワーク	
15	総括・試験				
評価方法	試験、課題提出、グループワーク参加状況				
必携図書	・地域・在宅看護論 地域・在宅看護論①：医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	地域・在宅看護論目的・対象論	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	30 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義・演習
科目目標	1. 地域で生活しながら療養する人々やその家族の特徴を学び在宅看護の基礎を理解する。 2. 保健・医療・福祉の関連職種と連携協働する中で看護の役割を理解する。				
授業概要	在宅で療養する対象とその家族について、VTR やグループワークを通して理解を深める。在宅看護の現状や最新情報を理解する。				
回数	授業内容				教育方法
1	地域・在宅看護を学ぶにあたって 1) 「もしあなたが在宅療養者だったら」 2) 地域・在宅看護の変遷・意義				講義
2	地域・在宅看護の対象 1) 地域に暮らすすべての人々 2) 家族の機能と役割				講義
3	地域・在宅看護の対象 3) 在宅看護の対象とその生活				講義
4	地域と暮らしを支える看護 1) 地域・在宅看護のニーズと動向①				講義・演習
5	地域と暮らしを支える看護 1) 地域・在宅看護のニーズと動向② 在宅看護が必要とされる背景、在宅看護の必要性				演習
6	地域と暮らしを支える看護 2) 地域・在宅看護の位置づけ				講義
7	地域と暮らしを支える看護 3) 地域包括ケアシステムの意義と概念 その1				講義
8	地域と暮らしを支える看護 3) 地域包括ケアシステムの意義と概念 その2				講義
9	地域と暮らしを支える看護 4) 地域・在宅看護を提供する場				講義
1 0	地域と暮らしを支える看護 5) 継続看護				講義
1 1	地域と暮らしを支える看護 6) 保健医療福祉の連携と関係職種①				講義
1 2	地域と暮らしを支える看護 6) 保健医療福祉の連携と関係職種②				講義
1 3	地域と暮らしを支える看護 7) 家族の介護負担とその軽減①				講義
1 4	地域と暮らしを支える看護 7) 家族の介護負担とその軽減②				演習
1 5	総括・試験				
評価方法	試験、課題提出、グループワーク参加状況				
必携図書					
参考図書	・国民衛生の動向				
その他					

授業科目	地域・在宅看護論方法論 I	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	2 年次 前期～後期
				授業形式	講義
科目目標	1. 保健医療福祉の連携において地域の社会資源の活用について理解できる。 2. 在宅ケアにおけるコーディネーターとして看護師の機能と役割が理解できる。				
授業概要	在宅看護のしくみ、制度や社会資源、関連職種との連携とマネジメントについて学び、在宅療養を支える看護についての理解を深める。制度や社会資源については、地域包括支援センターの看護師が事例を活用しわかりやすく説明する。				
回数	授業内容				教育方法
1	暮らしの中で生じる倫理 1) 期待される在宅看護と倫理性				講義
2	暮らしの中で生じる倫理 2) 在宅ケアにおける法的・倫理的諸問題 3) 在宅療養者の権利を擁護する制度				講義
3	地域・在宅看護論に関する法と制度と施策 1) 社会資源の活用活用 2) 医療保険制度と施策				講義
4	地域・在宅看護論に関する法と制度と施策 3) 介護保険制度と施策				講義
5	地域・在宅看護論に関する法と制度と施策 4) 訪問看護に関する法と制度				講義
6	地域・在宅看護論に関する法と制度と施策 5) 障害者・難病等に関する法と施策				講義
7	地域・在宅看護の提供の場 1) 病院・診療所 2) 居宅（自宅・施設） 3) 訪問看護ステーション				講義
8	地域・在宅看護の提供の場 4) 市町村保健センター 5) 地域包括支援センター				講義
9	地域・在宅看護の提供の場 6) 介護施設、老人保健施設 7) 通所サービス				講義
10	地域・在宅看護の連携とマネジメント 1) 在宅療養の準備（退院前）				講義
11	地域・在宅看護の連携とマネジメント 2) 療養の場の選択				講義
12	地域・在宅看護の連携とマネジメント 3) 病院から地域につなぐ継続看護とは				講義
13	地域・在宅看護の連携とマネジメント 4) 地域と生活をつなぐ継続看護とは				講義
14	地域・在宅看護の連携とマネジメント 4) 地域と生活をつなぐ継続看護とは				講義 演習
15	試験				
評価方法	試験、課題提出、グループワーク参加状況				
必携図書	・地域・在宅看護論 地域・在宅看護論①：医学書院 ・地域・在宅看護論 地域・在宅看護論②：医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	地域・在宅看護論方法論Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	単 位 時 間 数	1 単 位 30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	2 年次 前期～後期
				授業形式	講義
科目目標	1. 在宅療養者及び家族のセルフケア能力を高めるための援助方法を理解できる。 2. 基本的な看護技術を応用し、在宅療養者に適した安全な援助を身につける。				
授業概要	在宅における日常生活援助技術及び医療技術を学び、主たる疾患を持つ療養者・家族への支援を学習する。				
回数	授業内容				教育方法
1	暮らしの場で行われる治療と看護 1) 在宅における医療処置と看護 ①				講義
2	暮らしの場で行われる治療と看護 1) 在宅における医療処置と看護 ②				講義
3	事例から考える在宅看護 1) 小児在宅①				講義
4	事例から考える在宅看護 2) 小児在宅②				講義
5	事例から考える在宅看護 3) 小児在宅③				講義
6	在宅における援助技術 1) 摂食障害				講義
7	在宅における援助技術 2) 呼吸障害				講義
8	在宅における援助技術 3) 排泄障害				講義
9	在宅看護ケア用品の工夫①				講義
10	在宅看護ケア用品の工夫②作成				講義
11	在宅療養生活における援助技術 (洗髪、手浴、足浴)				講義
12	在宅看護ケア用品の工夫③発表				講義
13	生活の中で必要となる医療安全 リスクマネジメント				講義
14	訪問看護における訪問マナー 在宅コミュニケーション技術				講義
15	総括・試験				
評価方法	試験、課題提出、グループワーク参加状況				
必携図書	地域・在宅看護論 地域・在宅看護論①：医学書院				
持参図書	地域・在宅看護論 地域・在宅看護論②：医学書院				
その他					

授業科目	地域・在宅看護論方法論Ⅲ (訪問看護のプロセス)	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	15時間
				履修年次	2年次 前期～後期
				授業形式	講義
科目目標	1. 訪問看護のプロセスが理解できる。				
授業概要	訪問看護の看護過程の実際を想定し計画立案、訪問、記録報告まで演習し学習する。				
回数	授業内容				教育方法
1	訪問看護の実際 1) 訪問看護の看護過程 訪問看護記録				講義
2	訪問看護の実際 1) 訪問看護の看護過程 情報収集・アセスメント				講義
3	訪問看護の実際 1) 訪問看護の看護過程 問題点の抽出・看護目標				講義
4	訪問看護の実際 1) 訪問看護の看護過程 看護の方向性				講義
5	訪問看護の実際 1) 訪問看護の看護過程 訪問計画立案 (情報整理・アセスメント・問題点・看護の方向性)				講義・演習
6	訪問看護の実際 1) 訪問看護の看護過程 訪問計画立案 (具体策)				講義・演習
7	訪問看護の実際 1) 訪問看護の看護過程 計画に沿って実施・評価				講義
8	試験				
評価方法	試験、課題提出、グループワーク参加状況				
必携図書	地域・在宅看護論 地域・在宅看護①：医学書院 地域・在宅看護論 地域・在宅看護②：医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	地域・在宅看護論方法論Ⅳ (暮らしの場で継続する看護)	講師名	専任教員 外部講師	単 位 時 間 数	1 単位 30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	2 年次 前期～後期
				授業形式	講義
科目目標	1. 健康レベルに応じた看護の場について理解する。 2. 在宅終末期ケアの特徴及び、援助の方法を理解する。 3. 多職種の役割を理解し、事例をとおして多職種と連携しながら、看護の役割が理解できる。				
授業概要	在宅看護において健康レベルに応じた看護の場、療養者、家族の看護への支援について考える。終末期における療養者と家族の支援について学び、継続看護の必要性について考えることができる。社会福祉士・理学療法士を目指す学生と合同演習することで多職種と連携して協働する能力を養うことができる。				
回数	授業内容				教育方法
1	在宅療養の安定期 1) 在宅看護における安定期とは				講義
2	在宅療養の安定期 2) 患者事例を通して必要な支援を考える				講義
3	在宅リハビリテーション期 1) 在宅でのリハビリテーションの特徴				講義
4	在宅リハビリテーション期 2) 患者事例を通して必要な支援を考える				講義
5	急性増悪期 1) 在宅看護における急性増悪とは				講義
6	急性増悪期 2) 患者事例を通して必要な支援を考える				講義
7	末期 1) 在宅終末期ケアの特徴				講義
8	末期 2) 在宅終末期における日常生活援助 3) 在宅における終末期ケアの方法				講義
9	末期 4) 看取り 5) グリーフケア				講義
10	地域・在宅看護の連携とマネジメント 1) 多職種連携教育 オリエンテーション				講義
11	地域・在宅看護の連携とマネジメント 2) 多職種連携教育 事前学習				講義
12	地域・在宅看護の連携とマネジメント 3) 多職種連携演習 (開催場所: 立正大学)				演習
13					
14	4) 多職種連携演習の振り返り				講義・演習
15	試験				
評価方法	試験、課題提出、グループワーク参加状況				
必携図書	地域・在宅看護論 地域・在宅看護①: 医学書院 地域・在宅看護論 地域・在宅看護②: 医学書院				
参考図書					
その他					

授業科目	健康状態別看護 看護と倫理	講師名	専任教員	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	15 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	看護倫理の基礎を学び、倫理原則を考えた行動できるための基礎的能力を身につける。看護の場面で直面する倫理的課題と倫理の概念について学習し、看護師として人間の生命と尊厳・生活を尊重するための基本的能力を身につける。				
授業概要	看護倫理は看護者が適切な倫理的判断を行う拠り所となるものである。看護実践の場面で直面する倫理的課題について理解し、倫理的問題解決のための方法を事例を通して思考を深める。また、自己の行動を振り返り、自分自身の倫理的（道徳的）感受性を高めていくことを目指す。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 看護倫理とは 1) 看護者の倫理上の意思決定の基礎 ①倫理の原則 ②看護者の倫理綱領 ③倫理的問題の解決過程 ④倫理的責任と法的根拠				講義
2	2 成人看護における倫理と看護者の役割 1) 成人看護にまつわる倫理的課題 ①がん看護 ②終末期医療 ③救急医療・臓器移植				講義
3	3 母性看護における倫理（生命倫理）と看護師の役割 1) 生殖補助医療 2) 出生前診断 3) 出自を知る権利 女性の健康に伴う倫理的問題 1) 家族性・遺伝性疾患と遺伝検査 2) 女性の自己決定を支援する 産む・産まない・産めない				講義
4	4 災害時の看護と倫理 1) 価値観の違いとは 2) 功利主義 3) 災害時トリアージ 4) 災害時における看護の倫理とは				講義 GW
5	5 小児看護における倫理と看護師の役割 1) 子どもの権利 2) 子どもの権利と看護師の役割 3) 医療現場で起こりやすい問題 4) 子どもの虐待と看護				講義
6	6 高齢者看護の倫理的課題、高齢社会における権利擁護 1) 高齢者虐待 2) 身体拘束 3) 老々介護 4) 孤独死 1) 権利擁護のための制度 2) 成年後見制度 3) 日常生活自立支援事業				講義
7	7 成人看護、高齢者看護、小児看護、母性看護における倫理的問題と看護師の役割について 例：各課題の社会的背景、特徴から意思決定支援について考える。				講義
8	試験				
評価方法	筆記試験、提出課題、講義およびグループワーク等の出席状況				
必携図書	別巻 看護倫理 (医学書院) 看護職の基本的責務 (日本看護協会出版会)				
持参図書					
その他					

授業科目	健康状態別看護 問題解決活用法	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次 前期～後期
				授業形式	講義
単位内訳	成人看護学 0.4 単位、老年看護学 0.2 単位、小児看護学 0.2 単位、母性看護学 0.2 単位				
科目目標	発達段階にある対象の特徴を理解し、看護の実際を学ぶ。				
授業概要	成人期・老年期・小児期・妊娠期・産褥期の事例とした看護過程の展開から、情報収集、分析、解釈、看護計画の立案、実施、評価まで、一連の考え方、記載方法について学びます。気づくトレーニングを通して患者の状態に合わせた臨床判断について学びます。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 成人期・老年期の脳血管障害をもつ患者の看護（脳梗塞） 1) 成人・老年期にある事例を用いた看護過程 ①情報を患者の情報観察視点で整理、分析・アセスメント 1（データベース、16 項目）				講義 演習
2	2 成人期・老年期の脳血管障害をもつ患者の看護 1) 病態生理				講義 演習
3	2) 脳梗塞の治療と合併症の看護 ①急性期の治療と合併症と対策				講義 演習
4	3 成人期・老年期の脳血管障害をもつ患者の看護 ②情報を患者の情報観察視点で整理、分析・アセスメント 2 思考の整理				講義 演習
5	③全体関連図の作成				講義・演習
6	④全体関連図・全体像の描写 ⑤看護上の問題点の抽出 優先順位				講義・演習
7	⑥ケアプラン立案 長期目標 短期目標 ⑦実施・評価				講義・演習
8	気づくトレーニング ①問題解決技法とは ②臨床判断モデルとは ③臨床判断気づくトレーニングについて 今日の情報収集・気づく・解釈する・観察する・判断と実施・報告				講義・演習
9	臨床判断 気づくトレーニング				講義・演習
10	臨床判断 気づくトレーニング				講義・演習
11	老年看護学 ①高齢者の情報の整理と分析解釈 ②看護上の問題点の抽出 ③看護目標の立案				講義・演習
12	小児看護学 1) 急性症状および疾病の回復過程にある小児と家族の看護の事例展開（川崎病） ①事例紹介 小児の発達に応じた情報収集、観察視点および分析・アセスメント				講義・演習
13	小児看護学 ②全体像の描写、看護上の問題点の抽出、看護目標 ③解決策立案、実施・評価、フィードバック				講義・演習
14	母性看護学 1) 早期産褥新生児期の看護の事例展開（産褥 3 日目／生後 3 日目） ①情報を患者の情報観察視点で整理、分析・アセスメント				講義 演習
15	母性看護学 ②全体像の描写、看護上の問題点の抽出 ③看護目標 解決策立案 ④ウェルネスの視点をもつこと				講義 演習
評価方法	講義・演習等の出席状況、提出課題、演習評価				
必携図書	実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（照林社） しっかり身につく看護過程（照林社） 老年看護学 系統看護学講座専門Ⅱ 医学書院 老年看護学 系統看護学講座専門Ⅱ 病態・疾患論 医学書院 老年看護学 老年看護の実践 ナーシング・グラフィカ 27 メディカ出版 学研系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 1 医学書院 系統看護学講座 小児看護臨床各論 2 医学書院 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 1 メディカ出版 系統看護学講座 母性看護学各論（2） ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 メディカ出版				
参考図書	成人看護学リハビリテーション看護論（ヌーベルヒロカワ） 病気がみえる（vol.7） 脳・神経（医療情報科学研究所） 系看専門 1 1 成人看護学[7]脳・神経（医学書院） 事例で学ぶ看護過程 学研 病気がみえる vol.10 産科				
その他	共通基本技術Ⅳ資料				

授業科目	健康状態別看護 周手術期と看護	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	30 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
単位内訳	成人看護学 0.7 単位、老年看護学 0.1 単位、小児看護学 0.1 単位、母性看護学 0.1 単位				
科目目標	周手術期、集中治療を受ける対象の看護を実践するために必要な知識・態度・技術を習得する。				
授業概要	周手術期、集中治療を受ける対象の特徴と看護について認定看護師等の講義受け理解する。発達段階別に事例展開を含め学内教員が展開し周手術期看護について学んでいく。臨地実習につながる豊富なシミュレーション演習を行うため、演習前には学生は課題に取り組み理解に備える。周手術期と看護が実践を通してわかる内容である。				
回数	授業内容				教育方法
1	周手術期の看護の概要と看護師の役割 1 手術とは 2 手術を受ける患者及び家族の特徴 3 周手術期看護とは 4 看護援助に必要な概念 1) モニタリング 2) インフォームド・コンセント 3) セカンドオピニオン 4) 標準看護計画とクリニカルパス				講義
2	手術侵襲と生体反応 1 全身麻酔と局所麻酔 2 手術侵襲と生体反応 3 術後合併症				講義
3	手術前の看護 1 術前検査 2 手術前オリエンテーション 3 手術前準備 4 手術前訓練				講義
4	事例展開 呼吸器疾患患者の看護 (開胸術) 手術後の看護① 1 フィジカルアセスメント 事前課題：手術を受ける患者の特徴				講義
5	手術後の看護② 1 術後回復促進の看護 2 術後合併症の予防と看護 3 創傷治癒過程				講義
6	(シミュレーション) 手術前・後の看護③				演習
7	臍部処置、除毛、術後ベッド作り、フィジカルアセスメント、吸引・口腔				
8	ケア、心電図モニター、低圧胸腔内持続吸引中の看護 胃管カテーテルの				
9	管理 栄養管理 等 手術後の看護④ 振り返り				
10	集中治療を受ける患者の看護 (開心術) 1 心臓手術の特徴 2 手術前準備 3 手術直後の看護 4 呼吸管理				講義
11	5 術後合併症とその予防 6 回復期の看護 (心臓術後リハビリテー ション)				講義
12	手術を受ける高齢者の看護 1 手術前・術中・術後の看護 事前課題：手術を受ける高齢者の特徴				講義
13	手術を受ける小児と家族の看護 1 手術前・術中・術後の看護 事前課題：手術を受ける小児の特徴				講義
14	帝王切開を受ける産婦の看護 1 手術前・術中・術後の看護 事前課題：帝王切開を受ける産婦の特徴				講義
15	総括・試験				
評価方法	筆記試験・領域別小テスト、講義及び演習等の出席状況、提出課題等				
必携図書	臨床看護総論 (医学書院) 成人看護学 周手術期看護論 (ヌーヴェルヒロカワ) 老年看護学 (医学書院) 高齢者看護の実際 (メデイカ出版) 小児看護学概論・小児臨床看護総論 1、小児 看護臨床各論 2 (医学書院) 母性看護学各論 2 (医学書院)				
参考図書	成人看護学呼吸器・消化器 (医学書院) 老年看護実習ガイド (照林社) 病気が見える産科 (メ ディックメディア) 等				
その他					

授業科目	健康状態別看護 終末期と看護	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次 前期～後期
				授業形式	講義
単位内訳	成人看護学0.4単位、老年看護学0.2単位、小児看護学0.2単位、母性看護学0.2単位				
科目目標	生と死を支える看護者に求められる基本的な緩和ケアについて、全人的な視点と緩和ケアの具体的アプローチに必要な知識・技術・態度を修得する。				
授業概要	生命を脅かす病を持つ人生の最終段階にいる対象を理解し、家族を含めた援助の方法を学ぶ。また、学習を通して生と死について考え、自分自身の死生観を持てるようにする。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 終末期の看護の概要 1) 終末期とは 2) 人の生命 死とは何か 生命倫理 3) 告知・意思決定・尊厳死・脳死の定義				講義
2	2 終末期にある対象者の理解 1) 成人期・老年期における終末期の特徴、高齢者の死の捉え方と看護				講義
3	2) 小児期における終末期の特徴、小児と家族の死の捉え方と看護				講義 (川上)
4	3 終末期にある患者のトータルペイン (全人的苦痛) ①身体的苦痛②精神的苦痛③社会的苦痛④霊的苦痛(スピリチュアルペイン) 1) 身体的アセスメント				講義 グループワーク
5	2) 終末期にある対象者の日常生活援助 痛み以外の身体的苦痛と日常生活援助				講義 グループワーク
6	4 終末期にある患者の理解 (事例紹介) 身体的、社会的、心理的な関連図 死をめぐる意思決定・倫理的課題 (ディベート)				講義 (鈴木)
7	死をめぐる意思決定・倫理的課題 (発表)				講義 (鈴木)
8	5 緩和ケア 1) 終末期にある患者のトータルペイン (全人的苦痛) ①身体的苦痛 ②精神的苦痛 ③社会的苦痛 ④霊的苦痛(スピリチュアルペイン)				講義
9	2) 終末期にある非がん患者の苦痛の援助 (呼吸不全、心不全、腎不全、肝硬変、神経難病) ①痛みのアセスメント ②苦痛の治療と看護 (WHO3 段階除痛ラダー、鎮痛剤の管理: 毒薬・劇薬・麻薬)				講義
10	6 身体の緩和を目的とした援助、臨終期のケア、エンゼルケア				講義・演習
11	7 看取りの看護・家族看護 1) 終末期患者および家族の看護				講義 (山戸)
12	2) グリーフケア 家族ケア				講義 (山戸)
13	3) グリーフケア ペリネイタルロス (母胎、胎児、新生児)				講義 (辻村)
14	8 チームアプローチ				講義 グループワーク
15	総括・試験				
評価方法	課題・筆記試験、講義及び演習等の出席状況等				
必携図書	成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 (ヌーヴェル ヒロカワ)				
参考図書	看護学ごとに提示する				
その他					

授業科目	健康状態別看護 薬物療法と看護	講師名	専任教員 外部講師	単 位 時 間 数	1 単位 15 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	2 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	薬物療法を受ける対象の身体的な反応や状況が理解したうえで投薬、観察ができる。看護者として薬剤とその治療に関する正しい理解と患者支援について考えることができる。薬物療法を受ける対象の環境と状況を知り、援助の留意点や支援方法について探求ができるよう基礎的な知識を習得する。実践場面において、問題解決技法を用いて積極的にアプローチできる能力を養うことができる。				
授業概要	薬物療法を受ける看護の対象を理解する為に、薬物のもたらす影響や身体的な状況を形態機能学、病態生理学、疾患の成り立ち、環境などから関連づけた学びがされる。また、発達段階に応じた薬物動態を理解し、薬物の作用や副作用・リスク、用量、用法による違いが理解できる。看護師は、医師からの薬物治療に関する指示を受けた時点から、薬剤効果の発現の最終段階まで関わる。また、看護師にはリスク感性を持ち正確で安全な薬物療法の実施に責務がある。薬物療法中の対象への看護実践において、事例を通して、対象に応じた服薬支援と与薬について実践レベル考えていく。				
回数	授業内容			教育方法	
1	薬剤療法を受ける患者対象についての理解 実際の与薬場面での確認すべき 6 つの原則 薬剤とその作用の因果関係、看護問題の視点で何を発見するのか 能力とエビデンスという考え方			講義	
2	薬物療法を受ける対象の自己管理および自己コントロールのメカニズムとそれを支える看護援助（コンプライアンスとアドヒアランス）			講義	
3	薬物が与える様々な影響について 生活者への影響 日常生活の援助と調整（服薬支援）			講義	
4	治療薬についての調べ方・活用の仕方について 事例を薬学看護的視点で読み解いていく（事例を全体で読み解き演習の手立てとする）			講義	
5	発達段階に応じた事例検討(成人・老年)			講義	
6	発達段階に応じた事例検討（小児）			講義	
7	発達段階に応じた事例検討（母性）			講義	
8	総括・試験				
評価方法	筆記試験 ポートフォリオ、提出課題、講義および演習等の出席状況				
必携図書	今日の治療薬 クイックマスター薬理学第 3 版 鈴木正彦著 サイオ出版 2020				
参考図書	成人看護学 急性期看護論 ニューヴェルヒロカワ 成人看護学 周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ 成人看護学 慢性期看護論 ニューヴェルヒロカワ 成人看護学 リハビリテーション看護論 ニューヴェルヒロカワ 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ニューヴェルヒロカワ 系統看護学講座 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護学各論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論（2）医学書院				
その他	講義時に資料を配布します。				

授業科目	成人看護学目的・対象論	講師名	専任教員	単 位	1 単位
				時間数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	成人期にある対象の特徴・発達課題、成人期の生活と健康に影響を及ぼす諸因子及び成人保健の動向を把握し、成人看護の役割を理解する。				
授業概要	1 成人期にある対象の生活を理解し、看護の役割を学習する。 2 成人期にある対象の健康課題を理解し、看護に必要な知識を理解する。 3 成人期にある対象に有効な理論・モデルを理解し、看護への活用について学習する。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 成人期にある対象の理解 1) 成人の位置づけ：ライフサイクルにおける生活と社会的責任 2 成人期の特徴 1) 大人としてとらえる成人：身体・生理機能側面 セクシュアリティ側面 心理・社会・経済的側面 知的・認知側面 スピリチュアル側面				講義
2	2) 成人期各期の特徴 (1) 青年期・壮年期・向老期 (2) 成人期の発達課題：青年期・壮年期・向老期				講義・GW
3	3) 成人を取り巻く環境：生活環境 家族形態と機能の変化				講義・GW
4	3 成人期の健康 1) 成人保健の動向 2) 成人の健康レベル				講義
5	4 健康障害の段階に応じた看護 1) ヘルスプロモーションと疾病予防				講義
6	4 健康障害の段階に応じた看護 2) 急性期・周手術期看護 3) 慢性疾患看護				講義
7	4 健康障害の段階に応じた看護 4) リハビリテーション看護 5) ターミナル期（終末期）看護				講義
8	5 「生活習慣病の動向と予防」 1) 生活習慣病の動向、居住地の一次・二次・三次予防対策と現状				GW
9	6 健康障害の特徴に応じた看護 1) 生活習慣病 2) がん疾患 3) 感染症・自己免疫疾患・難病				講義
1 0	7 治療・処置を受ける患者の看護 1) 薬物療法 2) 食事療法・栄養療法				講義
1 1	7 治療・処置を受ける患者の看護 3) 運動療法 4) 在宅酸素療法 5) 透析療法				講義
1 2	8 「生活習慣病の動向と予防」				講義
1 3	9 多様なケア環境とチーム医療における看護援助 1) 地域で療養する人と家族への支援 2) チーム医療推進のための多職種連携と 看護の役割 3) 社会資源の活用 4) 保健・医療・福祉政策				講義
1 4	10 成人看護学に活用する理論・モデル 1) ニード論 2) セルフケア理論 3) 危機理論 4) ストレス理論・コーピング理論 5) 学習理論				講義
1 5	試験				
評価方法	筆記試験・提出レポート・GW発表				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 国民衛生の動向 (厚生統計協会)				
参考図書					
その他	注意：都合によりシラバス内容や日程の変更があります。				

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ (生きるを支える看護)	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	30 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	1 成人期にある対象の健康障害について学ぶ。 2 治療を受ける患者の看護を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。				
授業概要	治療を受ける患者およびその家族の状況を理解し、患者自らが健康回復のために主体的に治療過程に参加し、新たな療養行動を構築するための援助方法を学ぶ。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 急性の消化・吸収機能障害のある患者の看護 1) 基礎知識 2) 代表的な消化・吸収機能障害のある患者の看護(潰瘍性大腸炎)				講義
2	2) 消化・吸収機能障害のある患者の生活援助				講義
3	2 急性の循環機能障害のある患者の看護 1) 基礎知識 2) 代表的な循環機能障害のある患者の看護(心筋梗塞)				講義 (外部講師)
4	3) 検査と看護 (1)心電図 (2)心エコー (3)血液検査 4) 治療と看護 (1)再灌流療法 (2)薬物療法 5) 心臓リハビリテーション 6) 生活指導				講義 (外部講師)
5	3 急性の脳・神経機能障害のある患者の看護 1) 基礎知識 2) 代表的な脳・神経機能障害のある患者の看護(脳血管障害)				講義 (外部講師)
6	3) 脳・神経機能のアセスメント 4) 日常生活への影響と症状 (1)意識障害 (2)運動障害 (3)言語障害 (4)高次機能障害(失認・失行) 5) 検査・治療と看護 (1)脳血管造影 (2)腰椎穿刺				講義 (外部講師)
7	4 生活を支援する援助技術 1) 脳血管障害患者の生活援助(移乗、移送、更衣)				講義・演習
8	5 がん患者の苦痛緩和 1) 痛みのアセスメント 2) 痛みの治療と看護 3) WHO 3段階除痛ラダー 4) 薬剤の管理				講義 (外部講師)
9	6 薬物療法を受けるがん患者の看護 1) 基礎知識 2) 薬物療法施行時の看護師の役割				講義 (外部講師)
10	3) 日常生活への影響と副作用 (1)骨髄抑制 (2)悪心・嘔吐 (3)腎障害 (4)脱毛 (5)血管外漏出 (6)抗がん剤暴露 (7)骨髄移植				講義 (外部講師)
11	7 免疫療法を受ける患者の看護 1) 基礎知識 2) 免疫療法施行時の看護師の役割 3) 日常生活への影響と副作用				講義 (外部講師)
12	8 放射線療法を受ける患者の看護 1) 基礎知識 2) 放射線療法施行時の看護師の役割 3) 日常生活への影響と副作用(1)放射線宿酔 (2)皮膚症状 (3)粘膜炎 (4)放射線曝露				講義 (外部講師)
13	9 血液・造血機能障害をもつ患者の看護(悪性リンパ腫) 1) 基礎知識 (1)貧血 (2)発熱(易感染状態) (3)出血傾向(DIC) 2) 検査と看護 (1)骨髄穿刺				講義 (外部講師)
14	3) 治療と看護(1)輸血療法と管理 (2)抗生物質を投与されている患者の観察点 4) 日常生活への援助 (1)感染予防 (2)出血予防				講義 (外部講師)
15	総括・試験				
評価方法	筆記試験・その他(講義時の態度および提出物)				
必携図書	急性期看護論(ヌーヴェルヒロカワ)慢性期看護論(ヌーヴェルヒロカワ) リハビリテーション看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 系看護専門成人看護学[3]循環器 系看護専門成人看護学[4]血液・造血器 系看護専門成人看護学[5]消化器 系看護専門成人看護学[7]脳・神経 系看護別巻臨床放射線医学				
参考図書	病気が見える Vol.1 消化器 病気が見える Vol.2 循環器 病気が見える Vol.5 血液 病気が見える Vol.7 脳・神経				
その他					

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ (生活の再構築を支える看護)	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	30 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	1 成人期にある対象の健康障害について学ぶ。 2 健康障害が日常生活行動に及ぼす影響を理解する。 3 生活の再構築を支える看護を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。				
授業概要	骨折・関節リウマチ・乳癌・大腸癌・脊髄損傷の対象の状態を事例に健康障害が生活に及ぼす影響とそれによる生活の変化を考える。生活の変化がおきる対象について、再びその人が自立した生活を送るために必要な援助について学習する。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 生活の再構築とリハビリテーション看護 1) リハビリテーションの理念・看護の概念と目的 2) リハビリテーション看護の実際(1)看護師の役割 3) 生活機能分類				講義
2	2 リハビリテーションにおける倫理と法的問題 1) 障害者の定義と動向 2) 障害者に対する施策と基本理念 3) 障害受容・適応プロセスと看護 (1) リハビリテーションにおける心理的問題 (2) 障害受容に関する理論 (3) 社会資源の活用				講義
3	3 生活の再構築を支援する方法 1) 点滴施行中の患者の寝衣交換				講義・演習
4	4 運動機能障害をもつ患者の生活の再構築を支える看護 (骨折) 1) 運動機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活の影響と症状 ①日常生活動作困難②運動機能に関する痛み③廃用性変化(拘縮・変形) 2) 検査と看護				講義 (外部講師)
5	3) 生活の再構築を支援する方法 (1) 治療と看護 ①牽引療法②ギプス固定療法③手術療法 4) 骨折患者の看護 (1) 安静保持への援助 (2) 体動制限による苦痛				講義・演習
6	5 運動機能障害をもつ患者の生活の再構築を支える看護 (関節リウマチ) 1) 運動機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活への影響と症状 2) 治療と看護 (1) 薬物療法 (2) 手術療法				講義・演習 (外部講師)
7	6 性・生殖機能障害をもつ患者の生活の再構築を支える看護 (乳癌) 1) 性・生殖機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活への影響と症状 2) 検査と看護 (1) マンモグラフィ (2) 細胞診				講義 (外部講師)
8	3) 生活の再構築を支援する方法 (1) 乳房切除を受ける患者の看護 ①ボディイメージの変容 (2) 乳房切除を受けた患者の看護				講義 (外部講師)
9	7 消化・吸収障害をもつ患者の生活の再構築を支える看護 (大腸癌) 1) 消化・吸収機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活への影響と症状 ①イレウス ②下血 2) 検査と看護 ①消化管造影検査 ②大腸内視鏡検査				講義 (外部講師)
10	3) 生活の再構築を支援する方法 (1) 人工肛門造設を受ける患者の看護 (2) 人工肛門のセルフケア				講義 (外部講師)
11	8 運動機能障害をもつ患者の生活の再構築を支える看護 (脊髄損傷) 1) 運動機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活の影響と症状 ①運動麻痺 ②知覚障害 2) 検査と看護 (1) 感覚検査 (2) 脊髄造影検査				講義 (外部講師)
12	3) 生活の再構築を支援する方法 (脊髄損傷) (1) 排泄 (2) 移乗・移動 (3) 食事 (4) 清潔 (5) 呼吸 (6) 体温調節				講義 (外部講師)
13	9 脊髄損傷者障害受容について：グループワーク (事前学習：DVD 視聴)				講義・GW
14	10 生活の再構築を支援する援助技術 (骨折) 1) 歩行の援助 (1) 下肢にギプス装着中の患者の歩行援助 2) 関節可動域の評価、自動運動、他動運動 3) 日常生活行動への援助 ①関節硬縮予防 ②筋力強化				講義 (外部講師)
15	総括・試験				
評価方法	1 学力テスト(筆記試験) 2 課題提出状況 3 出席状況、学習・演習参加態度				
必携図書	リハビリテーション看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 慢性期看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 系看専門成人看護学 [10] 運動器系看専門成人看護学 [9] 女性生殖器 系看専門成人看護学 [11] アレルギー・膠原病 系看専門成人看護学 [5] 消化器				
参考図書	病気が見える Vol.1 消化器 病気が見える Vol.9 婦人科・乳腺外科 病気が見える Vol.11 運動器・整形外科				
その他					

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ (セルフケアマネジメントに向けての看護)	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30 時間
科目目標	1 成人期にある対象の健康障害について学ぶ。 2 健康障害によりセルフマネジメントが必要となる対象の特徴を理解する。 3 セルフマネジメントが必要な対象の看護を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。				
授業概要	COPD・糖尿病・慢性腎不全・慢性肝炎・肝硬変・肝癌の対象を事例に慢性的な健康障害を持ち、セルフマネジメントが必要な対象へのマネジメント方法の指導や身体的・精神的・社会的援助について学ぶ。				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 慢性疾患におけるセルフマネジメント 1) 慢性疾患の特徴とヘルスプロモーション 2) セルフマネジメントの考え方 (成人教育; アンドラゴジー)			講義	
2	2 セルフマネジメントを支援する構成要素 1) 自己効力理論 (セルフエフィカシー理論) 2) 病みの軌跡 3) 疾病の受け入れ過程 4) コンプライアンスとアドヒアランス			講義	
3	3 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護 (COPD) 1) 呼吸機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活への影響と症状 (①呼吸困難 ②咳嗽・喀痰) 2) 検査と看護 (1) 呼吸機能検査			講義	
4	3) セルフマネジメント支援 (1) 治療と看護 (①薬物療法 コントローラーとリリーバー ②酸素療法・在宅酸素療法)			講義	
5	(2) 日常生活への援助 (①呼吸リハビリテーション 体位ドレナージ スクイーピング) 4) 患者教育 (1) 禁煙教育 (2) 運動療法			講義	
6	4 慢性の代謝機能障害をもつ患者の看護 (糖尿病) 1) 代謝機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活への影響と症状 (①高血糖 ②低血糖 ③慢性合併症) 2) 検査と看護 (1) 簡易血糖測定 (2) 尿糖検査			講義 (外部講師)	
7	3) セルフマネジメント支援 (1) 治療と看護 (薬物療法 インシュリン) (2) 日常生活への援助 (①食生活調整 ②生活習慣と運動) 4) 患者教育 (1) インスリン自己注射法 (2) 食事指導			講義 (外部講師)	
8	5) 血糖測定			演習	
9	5 慢性の内部環境調節機能障害をもつ患者の看護 (慢性腎不全) 1) 内部環境調整のアセスメントと看護 (1) 日常生活への影響と症状 (①尿量②浮腫 ③電解質異常) 2) 検査と看護 (1) 腎機能検査			講義 (外部講師)	
10	3) セルフマネジメント支援 (1) 治療と看護 (①人工透析 ②腹膜透析) (2) 日常生活への援助 (①食事・水分調整 ②体重管理)			講義 (外部講師)	
11	4) 患者教育 (1) 腹膜透析管理 (2) シャント管理 5) 家族支援			講義 (外部講師)	
12	6 慢性の栄養摂取・消化障害をもつ患者の看護 (慢性肝炎・肝硬変・肝癌) 1) 栄養摂取・消化機能のアセスメントと看護 (1) 日常生活への影響と症状 (肝不全症状) 2) 検査と看護 (1) 内視鏡的逆行性膵・胆管造影法 (ERCP) (2) 肝生検 (3) 腹腔穿刺			講義	
13	3) セルフマネジメント支援 (1) 治療と看護 (経皮経胆管ドレナージ) (2) 日常生活への支援 (安静療法) 4) 患者教育 (食事指導)			講義	
14	7セルフマネジメントにむけての援助技術 1) 酸素療法と観察と管理			演習	
15	総括・試験				
評価方法	1 学力テスト (筆記試験) 2 課題提出状況 3 出席状況、学習・演習参加態度				
必携図書	成人看護学 慢性期看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 系看護専門成人看護学 [2] 呼吸器 系看護専門成人看護学 [5] 消化器 系看護専門成人看護学 [6] 内分泌・代謝 系看護専門成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)				
参考図書	病気が見える呼吸器、消化器、腎・泌尿器				
その他					

授業科目	老年看護学目的・対象論	講師名	外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	30 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	講義・演習
科目目標	超高齢社会の現状を理解し、老年期にある対象の加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴を学び、老年看護の役割について幅広く学習する。				
授業概要	ライフサイクルの集大成の時期に生きる老年期の対象を理解するため、加齢により身体的側面や精神的側面が変化していく特徴と、大きく変化していく社会的側面を理解する。また、後期高齢者人口の増加や家族形態の変化など高齢者を取り巻く社会情勢の変化と保健・医療・福祉制度の変遷と看護の役割を学ぶ。老年看護学を学ぶ第一歩として、グループワークや演習をとおして老年期について幅広く学習していく。				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 老年期の特徴 ①			講義	
2	1 老年期の特徴 ② - 1 生活史			GW	
3	1 老年期の特徴 生活史			GW	
4	1 老年期の特徴 ② - 2 生活史発表			講義 GW	
5	1 老年期の特徴 ③ - 1 身体的・精神的・社会的変化の特徴			講義	
6	1 老年期の特徴 ③ - 2 高齢者体験			演習	
7	1 老年期の特徴 ③ - 2 高齢者体験発表会			講義 演習	
8	2 超高齢社会と社会保障 ①			講義	
9	2 超高齢社会と社会保障 ② 統計資料作成			講義 演習	
10	2 超高齢社会と社会保障 統計資料作成			GW	
11	2 超高齢社会と社会保障 ③ 統計資料発表会			講義 GW	
12	2 超高齢社会と社会保障 ④ まとめ			講義	
13	3 老年看護の役割 ①			講義	
14	3 老年看護の役割 ②			講義	
15	総括・試験				
評価方法	課題・試験・講義の出席・GW参加状況等				
必携図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)				
参考図書	国民衛生の動向、高齢社会白書、 看護観察のキーワードシリーズ「高齢者 (中央法規)」				
その他	新聞記事				

授業科目	老年看護学方法論 I	講師名	専任教員	単 位	1 単位
			外部講師	時 間 数	30 時間
		実務経験	専任教員	履修年次	2 年次前期
			(看護師)	授業形式	講義・演習
科目目標	高齢者の生活機能の基本を理解し、生活を整えるための看護について学ぶ。				
授業概要	呼吸、食事、排泄など、人間の日々の営みを構成する生活機能に注目し、加齢に伴う生活機能の特徴、原因を学び看護に繋げていく。また、自宅以外の生活の場の特徴をふまえた看護、家族支援、多様なニーズに対応するために必要な他職種連携について学ぶ。さらに、加齢変化が及ぼす医療安全のリスクや、災害弱者となる高齢者の支援を学んでいく。				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 高齢者のヘルスアセスメント			講義	
2	2 高齢者の身体の高齢変化とアセスメント 1) 皮膚とその付属器、視覚とそのほかの感覚 2) 循環系、呼吸器系			講義	
3	2 高齢者の身体の高齢変化とアセスメント 3) 消化器系、ホルモンの分泌、泌尿生殖器			講義	
4	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 日常生活を支える基本動作 (1) 基本動作と環境のアセスメント			講義	
5	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 日常生活を支える基本動作 (2) 転倒のアセスメントと看護			講義	
6	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 日常生活を支える基本動作 (3) 廃用症候群のアセスメントと看護			講義	
7	3 高齢者の生活機能を整える看護 2) 食事・食生活			講義	
8	3 高齢者の生活機能を整える看護 3) 排泄 4) セクシャリティ			講義	
9	3 高齢者の生活機能を整える看護 5) 清潔 6) 生活リズム 7) 高齢者とのコミュニケーション			講義	
10	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 音楽療法の実際①			講義 (外部講師)	
11	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 音楽療法の実際②			講義 (外部講師)	
12	4 生活する場と看護 1) 療養生活を支える施設の特徴と看護			講義 (外部講師)	
13	4 生活する場と看護 2) 療養生活の場に求められる看護			講義 (外部講師)	
14	5 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者の医療安全 2) 高齢者の災害看護			講義 (外部講師)	
15	総括・試験				
評価方法	課題、試験、講義の出席状況等				
必携図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) カラー写真で学ぶ高齢者の看護 技術 (医歯薬出版)				
参考図書	国民衛生の動向、老年看護学①高齢者の健康と障害 (メデイカ出版)				
その他					

授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	単 位 時 間 数	1 単位 30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次 授業形式	2 年次前期 講義・演習
科目目標	高齢者が健康を逸脱する特徴と援助、治療を受ける高齢者の看護を学ぶ。				
授業概要	講義やグループワークから高齢者に特有の症候や疾患、治療と看護について学んでいく。事例をとおり、摂食・嚥下障害、排泄障害などの老年症候群について、それらの障害がどのように高齢者の生活に影響しているかアセスメントし、経管栄養法、おむつ交換、褥瘡ケアの技術を習得していく。				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 健康逸脱からの回復を促す看護 1) 症候のアセスメントと看護 (発熱、痛み、掻痒)			講義	
2	1 健康逸脱からの回復を促す看護 2) 症候のアセスメントと看護 (脱水、嘔吐、浮腫)			講義	
3	1 健康逸脱からの回復を促す看護 3) 症候のアセスメントと看護 (倦怠感、褥瘡・スキンケア)			講義	
4	1 健康逸脱からの回復を促す看護 4) 認知機能障害のある高齢者の看護 (1) 高齢者のうつ、せん妄の看護			講義 (外部講師)	
5	1 健康逸脱からの回復を促す看護 4) 認知機能障害のある高齢者の看護 (2) 認知症高齢者の看護①			講義 (外部講師)	
6	1 健康逸脱からの回復を促す看護 4) 認知機能障害のある高齢者の看護 (3) 認知症高齢者の看護②			講義 (外部講師)	
7	2 高齢者特有の看護 1) 入院治療を受ける高齢者の看護			講義	
8	2 高齢者特有の看護 1) 入院治療を受ける高齢者の看護			講義	
9	2 高齢者特有の看護 2) 検査を受ける高齢者の看護 3) リハビリテーションを受ける高齢者の看護			講義	
10	2 高齢者特有の看護 4) (1) 肺炎患者の看護 (2) 経管栄養法			講義	
11	3 高齢者特有の看護の看護技術			講義・演習	
12	3 高齢者特有の看護の看護技術 1) 経管栄養による流動食の注入 2) 口腔ケア(義歯の取り扱い)			演習	
13	3 高齢者特有の看護の看護技術 3) 高齢者のおむつ交換 4) 褥瘡ケア 5) 衣服の着脱			演習	
14	3 高齢者と家族			講義	
15	総括・試験				
評価方法	課題・試験・講義の参加状況等				
必携図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) カラー写真で学ぶ高齢者の看護 技術 (医歯薬出版)				
持参図書	国民衛生の動向、図解でわかる介護保険介護報酬の改正ガイド (アニモ出版) 老年看護学実習ガイド (照林社)				
その他	新聞記事、DVD				

授業科目	小児看護学目的・対象論	講師名	専任教員 外部講師	単 位 時 間 数	1 単位 30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次 授業形式	1 年次前期 講義
科目目標	小児各期の特徴を理解し、小児の成長・発達への援助及び小児の健康生活の保持・増進について学ぶ。				
授業概要	人間のライフサイクルにおける小児期の成長発達の理解を深めながら、今子どもの世界で起こっている問題(少子社会・小児観や育児観の変化・家族の変化・疾病構造の変化等)を多面的にとらえていく。また、小児がおかれている環境や社会についての理解を深め、法律や各種施策についても学んでいく。 小児看護の対象である子どもについて身体的・精神的成長発達を理解し、子どもを取り巻く家族や社会環境との関連を理解することができる。子どもの健康と権利を守るための諸制度とその活用について学ぶ。 子どもが健康な生活を送るための保育・看護の役割について学ぶ。				
回数	授業内容			教育方法	
1	第1章 小児看護の特徴と理念 小児看護の対象(子ども時代のエッセイの発表)			講義・発表	
2	第1章 小児看護の特徴と理念 小児と家族の諸統計、小児看護の変遷、小児看護における倫理			講義	
3	第2章 子どもの成長・発達 おもちゃのプレゼンテーション			講義	
4	第2章 子どもの成長・発達 成長・発達とは、成長・発達の進み方・影響する因子・評価			講義	
5	発達理論			講義 (外部講師)	
6	第2～5章 子どもの成長・発達 新生児・乳児・幼児・学童・思春期・青年期の子ども(グループワーク)			講義	
7	第2～5章 子どもの成長・発達 新生児・乳児・幼児・学童・思春期・青年期の子ども(グループワーク)			講義	
8	第2～5章 子どもの成長・発達 新生児・乳児・幼児・学童・思春期・青年期の子ども(発表)			講義	
9	第2～5章 子どもの成長・発達 新生児・乳児・幼児・学童・思春期・青年期の子ども(発表)			講義	
10	健康な小児の日常生活 ①基本的な生活習慣の援助			講義	
11	健康な小児の日常生活 ②小児の栄養と食生活			講義	
12	健康な小児の日常生活 ③小児各期の遊び ④事故と安全			講義	
13	小児と家族を取り巻く社会 ①家族の特徴とアセスメント ②小児と虐待 ③小児看護から育成医療へ			講義 (外部講師)	
14	これからの小児看護 ①小児をめぐる法律と政策 ②次世代育成支援・子育て支援 ③予防接種・学校保健			講義 (外部講師)	
15	総括・試験				
評価方法	提出課題(夏休み明け、30点):子ども時代のエッセイ(A4紙1枚)、 子どものおもちゃ作り(発達段階を考えたおもちゃ作成と説明A4紙1枚) 筆記試験(70点)、講義及び演習等の出席状況等				
必携図書	系統看護学講座(専門分野) 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学1(医学書院)				
参考図書	国民衛生の動向				
その他	ビデオ・DVD・シミュレーター人形・離乳食体験				

授業科目	小児看護学方法論 I	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30 時間
科目目標	①疾病や入院が小児と家族に与える影響と援助を理解する。 ②検査や処置を受ける小児と家族の看護を学ぶ。				
授業概要	健康を障害された小児と家族にとって、疾病や入院、検査・処置がおよぼす影響について考え、安全性のある援助について理解する。				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 章 健康を障害された小児と家族の看護			講義	
2	2 章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護			講義	
3	3 章 子どもにおける疾病の経過と看護			講義	
4	7 章 障害がある子どもと家族の看護			講義	
5	健康を障害された小児と家族の看護（グループワーク） 4 章 子どものアセスメント 5 章 症状を示す子どもの看護 6 章 検査・処置を受ける子どもの看護			演習	
6	健康を障害された小児と家族の看護（グループワーク）			演習	
7	入院中の小児の医療安全			講義 (外部講師)	
8	在宅療養にある小児と家族の看護			講義 (外部講師)	
9	心身障害のある小児と家族の看護			講義 (外部講師)	
1 0	先天的な問題をもつ小児と家族の看護			講義 (外部講師)	
1 1	糖尿病看護認定看護師			講義 (外部講師)	
1 2	健康を障害された小児と家族の看護（発表） 4 章 子どものアセスメント 5 章 症状を示す子どもの看護 6 章 検査・処置を受ける子どもの看護			演習	
1 3	健康を障害された小児と家族の看護（発表）			演習	
1 4	検査や処置を受ける小児と家族の看護 ①バイタルサインの測定 ②身体計測 ③おむつ交換 ④与薬方法 ⑤骨髄穿刺・腰椎穿刺時の看護 ⑥採尿等			講義・演習	
1 5	総括・試験				
評価方法	講義及び演習等の出席状況、提出課題等(30 点)、筆記試験 (70 点)				
必携図書	系統看護学講座 小児看護概論・小児臨床看護総論 1 医学書院 系統看護学講座 小児看護臨床看護各論 2 医学書院				
参考図書	DVD				
その他	領域別看護学実習準備：ワクチン接種及び感染症（抗体保有）検査報告書・同意書の作成 *母子手帳等が必要になります。 医療安全シート、こども達の興味のあるもの・新聞記事等				

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	単 位 時間数	1単位 30時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	2年次前期
				授業形式	講義
科目目標	①急性症状および疾病の回復過程にある小児と家族の看護を学ぶ。 ②事例を用いて状況に応じた具体的な看護方法を学ぶ。				
授業概要	健康を障害された小児と家族の看護について、急性症状および疾病の回復過程（救急・回復期・慢性期）に分け、具体的な事例を通じて看護を学ぶ。				
回数	授業内容			教育方法	
1	急性症状のある小児と家族の看護 ①発熱時の看護			講義・演習	
2	急性症状のある小児と家族の看護 ②脱水時の看護			講義・演習	
3	急性症状のある小児と家族の看護 ③呼吸困難時の看護			講義・演習	
4	急性症状のある小児と家族の看護 ④痙攣時の看護			講義・演習	
5	急性症状のある小児と家族の看護 ⑤低出生体重児の看護			講義 (外部講師)	
6	救急処置が必要な小児と家族の看護 ①			講義 (外部講師)	
7	救急処置が必要な小児と家族の看護 ②			講義 (外部講師)	
8	回復過程にある小児と家族の看護 ①川崎病の看護の事例検討			講義	
9	回復過程にある小児と家族の看護 ②川崎病の看護の事例検討			講義・演習	
10	慢性期にある小児と家族の看護 ①小児慢性特定疾患治療研究事業			講義	
11	慢性期にある小児と家族の看護 ②白血病：貧血、出血傾向			講義 (外部講師)	
12	痛みのある小児と家族の看護			講義 (外部講師)	
13	慢性期にある小児と家族の看護 ③ファロー四徴症：チアノーゼ			講義・演習	
14	慢性期にある小児と家族の看護 ④ネフローゼ症候群：浮腫			講義・演習	
15	総括・試験				
評価方法	筆記試験（70点）、講義及び演習等の出席状況、提出課題等（30点）				
必携図書	系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論1 医学書院 系統看護学講座 小児看護臨床各論2 医学書院 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護1 メディカ出版				
持参図書					
その他	ビデオ・DVD、小児医療センターDVD				

授業科目	母性看護学目的・対象論	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
		実務経験	専 任 教 員	履修年次	1 年次後期
			(看護師)	授業形式	講義
科目目標	母性看護の概念を理解し、母子保健の変遷・現状や看護の必要性と役割について学ぶ				
授業概要	母性と父性、親性とは、母性看護の概念をもとに、学生と考えながら進める。母性看護の対象の特徴、取り巻く社会や現状が理解でき、看護の必要性を身近に感じられる。				
回数	授業内容			教育方法	
1	母性看護の概念① 母性・父性・親性・育児性 親役割に関する理論 人はどのように親になっていくのか 愛着形成と母子相互作用			講義	
2	母性看護の概念① 子どもの誕生に伴う家族関係の変化 家族の発達と看護 GW 課題提示			講義	
3	母性看護の概念② リプロダクティブヘルス/ライツ			講義	
4	母性看護の概念③ セクシュアリティ 性の分化 性とジェンダー GW 発表			GW	
5	母性を取り巻く社会① 母性看護の変遷 母子保健統計の動向 母子保健に関する施策 GW 課題提示			講義	
6	母性を取り巻く社会② 母子の健康と法律・制度 産後ケア事業が必要になったわけ			GW	
7	母性を取り巻く社会③ 母子の健康と法律・制度 4コマ漫画で紹介しよう GW 発表			講義	
8	女性のライフサイクル各期の特徴と保健指導① 女性のライフサイクルの木 ウイメンズヘルスを学ぶ			講義	
9	女性のライフサイクル各期の特徴と保健指導② 自分の骨盤と骨盤底筋を知ろう マタニティヨガから学ぶ 個人課題提示			GW	
10	女性のライフサイクル各期の特徴と保健指導③ 子育て世代の体験談から学ぶ 個人課題提出			GW	
11	リプロダクティブヘルスケア① 性の健康を支援する 性感染症 性教育			講義・GW	
12	リプロダクティブヘルスケア② 女性の自己決定を支援する 産む・産まない・産めない			講義・GW	
13	リプロダクティブヘルスケア③ 性暴力を受けた女性に対する看護			講義・GW	
14	リプロダクティブヘルスケア④ 不妊症と看護 国際化の現状と外国人妊産婦への看護			講義・GW	
15	総括 試験				
評価方法	試験 (70 点) 課題 (30 点)				
必携図書	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学 (1) 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学 (2) 国民衛生の動向				
持参図書	病気がみえる 産科 メディックメディア				
その他					

授業科目	母性看護学方法論 I	講師名	専任教員 (助産師)	単 位 時 間 数	1 単位 30 時間
			外部講師	履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	妊婦・産婦の生理的変化と正常な経過を理解し、妊婦・産婦に必要な看護および保健指導を学ぶ。				
授業概要	母性看護学目的・対象論で学んだ内容を踏まえ、妊婦・産婦の生理的変化と正常な経過を理解し、その看護や保健指導、臨床で見られる妊娠期の異常と看護についても学ぶ。講義の中心は、外部講師となり、臨床の助産師による講義から看護や保健指導の実際を学ぶことができる。講義の他、視聴覚教材や妊婦体験や模型での子宮底触診法、分娩時の呼吸法などの母性看護学ならではの技術演習を組み入れ、イメージが付くよう工夫した。学生同士考えを述べたり聞いたりしながら進める。妊娠期と分娩期にある対象への看護について興味関心を抱いてもらえるとうい。				
回数	授業内容			教育方法	
1	オリエンテーション (妊婦とは、産婦とは) ①母子健康手帳の見方 ②妊婦体験 自分の母子健康手帳を持参してください			講義	
2	①妊娠とは ②妊娠期間の定義 ③妊娠の診断 ④分娩予定日の算出			講義 (外部講師)	
3	①妊婦と胎児の生理的変化 ②妊娠期の全体像 ③妊娠期のマイナートラブル			講義 (外部講師)	
4	①妊娠期の心理 ②妊婦健康診査 ③ハイリスク妊婦の看護			講義 (外部講師)	
5	①妊娠期の保健指導 ②バースプラン ③分娩準備教育			講義 (外部講師)	
6	①妊婦診察の実際必要な技術 (計測法・レオポルド触診法・胎児心拍の聴取法等) ②妊婦の健康診査の実際 ③母子健康手帳の活用			演習	
7	①分娩とは ②分娩の3要素 ③産痛とは			講義 (外部講師)	
8	①胎児の産道通過機序 ②分娩各期の定義 ③分娩徴候			講義 (外部講師)	
9	①分娩各期の経過 ②パルトグラム ③助産録			講義 (外部講師)	
10	①分娩が母児に及ぼす影響 ②分娩監視装置とモニタリング ③分娩期に異常が生じた産婦の看護			講義 (外部講師)	
11	①分娩期の心理 ②家族の心理と役割 ③リード理論			講義 (外部講師)	
12	①産婦のニードと看護			講義 (外部講師)	
13	①産婦の看護の実際 ②呼吸法 ③補助動作			演習	
14	まとめ 妊娠期と分娩期にある対象の看護			講義・演習	
15	試験・総括				
評価方法	試験60点 課題40点 (カスタマーサクセス看護、課題レポート)				
必携図書	系統看護学講座 母性看護学各論 (2) 医学書院 ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メデイカ出版				
参考図書	病気が見える 産科 メディックメディア 見本用母子健康手帳・母子健康手帳副読本等				
その他	妊婦体験モデル・妊婦胎児模型・視聴覚教材 (DVD)				

授業科目	母性看護学方法論Ⅱ	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次前期
				授業形式	講義
科目目標	産褥期の対象および新生児の特徴を理解し、援助の実際を実践的に学ぶ。				
授業概要	母性看護学目的・対象論、母性看護学方法論Ⅰを踏まえ、母性看護学方法論Ⅱでは、産褥期にある母子（褥婦とその新生児）について理解を深め、具体的な場面からアセスメントする力をつける。また、臨床で見られる産褥と新生児期の異常と看護についても学ぶ。講義の中心は、外部講師2名からの授業となる。産褥期の看護は、実習施設の助産師であり、母性看護学実習で役に立つ知識や技術を学ぶことができる。新生児についても、臨床の助産師による講義のため、看護の実際を学ぶことができる。演習では、母性看護学実習で役に立つ新生児の看護技術（観察や沐浴）を実施する。さらに、事例を通して考えた看護を実施・評価してイメージが付くよう工夫した。産褥・新生児期にある対象への看護について興味関心を抱き、母性看護学実習への興味関心へとつながるとよい。				
回数	授業内容			教育方法	
1	産褥期の特徴 ①実習産科病棟の紹介 ②コミュニケーション技法について			講義・演習	
2	③産褥期の身体的変化 ④母乳栄養 ⑤母子関係確立への援助			講義・演習	
3	③産褥期の身体的変化 ④母乳栄養 ⑤母子関係確立への援助 ③～⑤について発表会			GW 発表	
4	⑥産褥期の回復を促す援助 ⑦母子相互作用・母親への適応過程・父親の心理的変化			講義	
5	⑥産褥期の回復を促す援助 ⑦母子相互作用・母親への適応過程・父親の心理的変化 ⑥⑦について発表会			GW 発表	
6	SMC マッサージ、母乳栄養のための関わり、退院後の関わりについて 産褥期に異常が生じた褥婦の看護			講義・演習	
7	新生児の生理 新生児とは			講義・DVD	
8	新生児の生理 新生児の機能			講義	
9	新生児のアセスメント 新生児の健康状態のアセスメント			講義	
10	新生児のアセスメント ①新生児の診断 ②新生児期の異常と看護			講義	
11	新生児の看護 ①出生直後の看護 ②出生後から退院までの看護			講義・演習	
12	新生児の看護 ①沐浴 ②生後1か月健康診査に向け退院時の看護			講義・DVD	
13	新生児の観察 ①バイタルサイン測定 ②計測 ③観察			講義	
14	沐浴実習			講義	
15	試験				
評価方法	試験60点 課題40点（カスタマーサクセス看護、課題レポート）				
必携図書	系統看護学講座 母性看護学各論（2）医学書院 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メデイカ出版				
参考図書	病気がみえる vol10.産科・新生児ベーシックケア・母性看護学：医学芸術社				
その他					

授業科目	精神看護目的論	講師名	外部講師	単 位	1単位
				時 間 数	15時間
				履修年次	1年次後期
				授業形式	講義
科目目標	精神保健に関する基礎的知識の講義を行う				
授業概要	精神科看護学に必要な精神保健の基本的知識を取得すると同時に、自分自身のメンタルヘルスおよび社会全体のメンタルヘルスの維持と増進に関心を持ち、それに寄与できるような心構えを持つことを目標とする。				
回数	授業内容			教育方法	
1	精神の健康とは 精神保健とは 健康の定義 心（精神）の健康とは 精神保健の定義 予防の視点 予防活動の場 課題など			講義	
2	さまざまな社会病理現象① 自殺と対策 危機介入 依存症 周産期			講義	
3	さまざまな社会病理現象② 暴力 児童虐待 高齢者への虐待 DV PTSD			講義	
4	心の機能と発達① 精神分析 防衛機制 エリクソンの発達論 自我同一性			講義	
5	心の機能と発達② 集団力動 リーダーシップ チームワーク論 チーム医療			講義	
6	危機（クライシス） 危機理論 問題解決モデル 危機介入 心的外傷体験 危機管理におけるメンタルヘルス			講義	
7	ストレス ストレスとは 左右する条件 ストレス関連障害 ストレスマネジメント			講義	
8	試験				
評価方法	筆記試験予定				
必携図書	精神看護学1（精神看護学の基礎） 医学書院 2017年 精神看護学2（精神看護学の展開） 医学書院 2017年				
参考図書					
その他					

授業科目	精神看護学対象論	講師名	外部講師	単 位	1 単位
				時 間 数	30 時間
				履修年次	1 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	精神科看護に必要な基礎的知識と手段を、講義と演習形式で学ぶ。				
授業概要	精神科看護のみならず、目の前の患者を全人的に“みる”ために役立つ知識を講義で、具体的に 関わるスキルを演習で学ぶ。				
回数	授業内容			教育方法	
1	精神医学の基礎知識① 発達 知能 知覚 思考 記憶 感情 意識 意欲			講義	
2	精神医学の基礎知識② 統合失調症 うつ病 双極性障害 強迫性障害 不安障害 発達障害			講義	
3	リエゾン精神看護 リエゾン精神医学とは リエゾン精神看護とは 疾病受容 身体疾患 と精神症状			講義	
4	身体疾患とメンタルヘルス① 病むという体験 不安 恐怖 喪失と悲嘆 急性・重症患者 手術 生活習慣病			講義	
5	身体疾患とメンタルヘルス② 女性 小児 高齢者 在宅ケア			講義	
6	身体疾患とメンタルヘルス③ ターミナルケア 死と死別 遺族			講義・演習	
7	患者を支える側のメンタルヘルス 家族 看護師 メンタルウェルネス ストレスマネジメント			講義・演習	
8	生活の場とメンタルヘルス① 学校における精神保健上の担当者・問題・支援 労働形態・労働環境 の変化 職場の問題など			講義	
9	生活の場とメンタルヘルス② 家族形態とその変化・問題 家族のアセスメントと援助			講義・演習	
1 0	保健医療に関する資源と活用 行政機関 専門職 訪問看護 精神科デイケア 精神科早期介入 障 害者ケアマネジメント等			講義	
1 1	精神保健医療福祉の歴史 古代ギリシャ～近代ヨーロッパ 各国の精神医療・看護の変遷 日本 における法と関連事件			講義	
1 2	精神保健医療福祉の法律 精神保健福祉法による入院 指定医・特定医師 自殺対策基本法 犯 罪被害者基本法など			講義	
1 3	心の健康に関する普及啓発 社会復帰・社会参加 偏見・スティグマ 精神保健医療福祉の全体構 想 患者の権利擁護			講義	
1 4	精神科チーム医療 チーム医療 患者主体の治療方針 アサーション			講義・演習	
1 5	試験				
評価方法	筆記試験予定				
必携図書	精神看護学 1 (精神看護学の基礎) 医学書院 2017 年 精神看護学 2 (精神看護学の展開) 医学書院 2017 年				
参考図書					
その他					

授業科目	精神看護学方法論 I	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30 時間
				履修年次	2 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	心の健康の保持増進をするための援助および精神看護に特有な援助技術が理解できる。				
授業概要	精神看護学の考え方から自己理解・他者理解の基本を学び、治療的関わりの技術について理解する。また、特徴的な入院環境や治療を学び、人権擁護や家族援助など幅広く学ぶ。				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 精神看護の考え方 1) 精神看護の考え方			講義	
2	1 精神看護の考え方 2) 精神看護師の役割			講義	
3	2 精神看護に用いる理論・モデル			講義	
4	3 治療的関わりの構築 1) 治療的関わりの考え方			講義	
5	3 治療的関わりの構築 2) 患者－看護師関係①			講義	
6	3 治療的関わりの構築 2) 患者－看護師関係②			講義	
7	3 治療的関わりの構築 3) プロセスレコード①			講義・演習	
8	3 治療的関わりの構築 3) プロセスレコード②			講義・演習	
9	4 入院環境と治療的アプローチ 1) 服薬行動に関わる援助 (1) 抗精神病薬の有害反応と看護 (2) 薬に対する患者の思い 2) 身体合併症のある患者の看護			講義 (外部講師)	
1 0	4 入院環境と治療的アプローチ 3) 治療的環境と看護 4) 日常生活行動の援助			講義 (外部講師)	
1 1	4 入院環境と治療的アプローチ 5) 精神療法・社会療法・電気けいれん療法 (1) 精神における治療の実際 認知行動療法 (SST) ①			講義 (外部講師)	
1 2	4 入院環境と治療的アプローチ (1) 精神における治療の実際 認知行動療法 (SST) ②			講義 (外部講師)	
1 3	5 精神看護における倫理と人権擁護 1) 精神医療におけるアドボガシー 2) 生活の場としての治療環境 3) 拘束と看護師の関わり 4) 地域生活における権利擁護			講義 (外部講師)	
1 4	6 家族看護 1) 家族をみる視点 2) 家族の課題 3) 精神疾患と家族			講義 (外部講師)	
1 5	総括・試験				
評価方法	筆記試験、講義及び演習等の出席状況、提出課題等				
必携図書	川野雅資ほか 精神看護学 I (精神保健学)、II (精神臨床看護学) ニューベルヒロカワ 2015 年				
参考図書	長谷川雅美ほか 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 日総研出版 2010 年 出口禎子ほか 情緒発達と精神看護の基本 精神看護学① メディカ出版 2022 年 出口禎子ほか 精神障害と看護の実践 精神看護学② メディカ出版 2022 年				
その他					

授業科目	精神看護学方法論Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	単 位	1単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時 間 数	30時間
				履修年次	2年次後期
				授業形式	講義
科目目標	精神疾患をもつ人への援助が理解できる。				
授業概要	精神の主な疾患や症状とその看護を理解します。また、精神に疾患をもつ人を取り巻く社会の変遷や法制度について学び、地域で暮らす支援を考えていきます。さらに、紙上事例で看護過程を展開し、問題点の抽出・解決策を考えていきます。				
回数	授業内容			教育方法	
1	1 精神疾患とその看護 1) 統合失調症患者の看護			講義 (外部講師)	
2	1 精神疾患とその看護 2) 物質関連障害・抑うつ障害・双極性障害にある患者の看護			講義 (外部講師)	
3	1 精神疾患とその看護 3) 神経発達症・パーソナリティ障害にある患者の看護			講義 (外部講師)	
4	1 精神疾患とその看護 4) 不安障害・強迫性障害・ストレス因関連障害にある患者の看護			講義 (外部講師)	
5	2 安全管理 1) 治療の場としての精神科病棟 (1) 入院治療の利点、危険性とその問題 (2) 災害時の安全管理			講義 (外部講師)	
6	2 安全管理 2) 精神科におけるリスクマネジメント			講義 (外部講師)	
7	3 多職種によるチーム医療 1) 医療観察法と看護 2) チーム医療 3) 入院医療から地域における保健・医療・福祉への転換			講義 (外部講師)	
8	4 「地域で暮らす」を支える看護 1) 医療から地域生活へ			講義 (外部講師)	
9	4 「地域で暮らす」を支える看護 2) 地域生活を支える社会資源の活用			講義 (外部講師)	
10	4 「地域で暮らす」を支える看護 3) 地域生活支援の実践			講義 (外部講師)	
11	5 看護過程の展開 1) 精神看護学における看護過程の特徴・事例紹介(統合失調症) 2) 情報収集			講義	
12	5 看護過程の展開 3) ストレングスの考え方 4) 分析・解釈			講義	
13	5 看護過程の展開 4) 分析・解釈			講義・演習	
14	5 看護過程の展開 5) 看護計画立案 看護の特徴			講義	
15	総括・試験				
評価方法	筆記試験、講義及び演習等の出席状況、提出課題等				
必携図書	川野雅資ほか 精神看護学Ⅰ(精神保健学)、 Ⅱ(精神臨床看護学) ヌーベルヒロカワ 2015年 川野雅資ほか 新看護観察のキーポイントシリーズ 精神科Ⅰ 中央法規 2011年				
参考図書	坂田三允 心を病む人の看護 中央法規 1995年 出口禎子ほか 情緒発達と精神看護の基本 精神看護学① メディカ出版 2022年 出口禎子ほか 精神障害と看護の実践 精神看護学② メディカ出版 2022年				
その他					

授業科目	国際看護と災害看護	講師名	外部講師	単位	1単位
				時間数	15時間
				履修年次	3年次後期
				授業形式	講義
科目目標	国際看護にかかわる基本的な概念と看護の国際協力について理解する。 災害時における医療の特色と看護のあり方を理解する。				
授業概要	国際看護に必要な基本的知識を学び、海外で活躍する看護師等の生の声を聞いていけるようにしました。また、災害直後から支援できる看護の基礎的知識を学びます。				
回数	授業内容	教育方法			
1	1 国際援助活動における看護 1) 国際看護活動における看護 2) 国際援助活動の現状と課題 3) 国際救援活動における看護の役割	講義			
2	1 国際援助活動における看護 4) 国際援助活動における看護の実際	講義			
3	2 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護	講義			
4	3 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護	講義			
5	4 国際看護学 1) 看護とグローバリゼーション 2) 国際看護学とは何か 3) 開発と健康 4) 保健医療の国際協力	講義			
6	5 災害看護の実際 1) 被害者特性に応じた災害看護の展開 2) 災害時の心のケア 3) 止血法	講義			
7	6 トリアージ演習 1) 災害看護活動の課題	講義・演習			
8	試験				
評価方法	筆記試験100点				
必携図書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学 医学書院				
持参図書	小原真理子、酒井明子監修：災害看護 心得ておきたい基本的な知識、南山堂 高橋功：消防職員のためのトリアージ、東京法令出版 保坂隆：災害ストレスー直接被害と報道ストレス				
その他					

授業科目	医療安全	講師名	専任教員 外部講師	単位	1 単位
		実務経験	専任教員 (看護師)	時間数	30 時間
				履修年次	3 年次後期
				授業形式	講義
科目目標	基礎的知識に基づいた医療安全を図る技術を学ぶ。				
授業概要	紙上事例の展開や転倒転落・誤薬の模擬体験を通して看護医療安全の基本を学び、看護マネジメントの基礎的知識を含め、看護実践能力の統合を図る。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 看護マネジメントー1) 看護サービス管理 (1)看護組織とマネジメント (2)診療報酬と人員配置基準と看護サービスの評価				講義
2	1 看護マネジメントー2) 人的資源の管理 (1)看護職員のキャリア開発と目標管理 (2)雇用形態と勤務体制				講義・演習
3	1 看護マネジメントー3) 看護管理のスキルとチームマネジメント (1)人間関係を構築する技術 (2)組織の効率性を高める技術				講義・演習
4	2 看護医療安全 1) 医療安全の概念				講義
5	2) R C A又はシェル分析 (リスクマネジャーの講義と演習)				講義
6	R C A又はシェル分析 (リスクマネジャーの講義と演習)				演習
7	R C A又はシェル分析 (リスクマネジャーの講義と演習)				演習
8	3) K Y T (危険予知訓練シート) の実施				演習
9	3 看護における安全対策 1) 模擬体験の目的・目標				演習
10	2) 「転倒転落」「誤薬」の模擬体験とリフレクション				演習
11					
12					
13					
14	3) グループ発表とまとめ				演習
15	総括・試験				
評価方法	試験(60点)、演習・レポート(40点)				
必携図書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理、〔2〕医療安全 医学書院 医療安全とリスクマネジメント ニューベルヒロカワ				
参考図書	医療安全ワークブック 医学書院				
その他					

授業科目	看護研究	講師名	専任教員	単位	1 単位
				時間数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	3 年次
				授業形式	講義・演習
科目目標	看護研究における研究の意義を理解し、看護を追究する態度を身につける。 1 看護研究の基本的事項を理解する。 2 看護研究の倫理について理解する。 3 文献検索の意義や活用方法を理解する。 4 看護研究のプロセスを理解する。 5 看護研究をまとめ発表する。				
授業概要	文献レビューや文献のクリティークを行い、看護研究を実施するために必要な方法論や研究倫理を理解し、実践可能な研究計画書作成・論文の書き方・発表までを学びます。				
回数	授業内容	教育方法			
1	1 看護における研究の意義と研究のプロセス 1) 看護研究の定義 2) 看護研究の役割 3) 看護研究の特徴 4) 看護研究の重要性 5) 研究の意義 6) 研究のプロセス 7) リサーチクエスチョン	講義			
2	2 文献検討 (検索) 1) 文献の種類 2) 一次文献と二次文献 3) 文献レビューと目的 4) 文献検索の方法 5) 文献の読み方 (クリティーク)	講義			
3	3 研究における倫理的配慮 1) 研究倫理の歴史 2) 看護研究における倫理を考える上での前提 3) 看護研究を行う上での遵守すべき倫理原則と擁護すべき権利	講義			
4	4 研究デザイン 1) 研究過程における研究デザインの位置づけ 2) 研究デザインの選択 3) 質的研究デザイン 4) 量的研究デザイン	講義			
5	5 データの収集とデータの分析 1) データの収集方法 2) アンケート調査の長所と短所 3) 質的データ分析の特徴 4) 量的データ分析	講義			
6	6 研究計画書 1) 研究計画書とは 2) 研究計画書の意義と作成上の注意点 3) 研究計画書の形式	講義			
7	7 研究論文の構成 1) 研究背景 2) 研究目的 3) 用語の定義 4) 研究方法 5) 倫理的配慮 6) 研究結果 7) 考察 8) 結論 9) 論文の構成と原稿規定 (本学院)	講義			
8	8 研究論文の評価方法 1) 論文の分析的評価の進め方 2) 量的研究 (演繹的研究) の評価 3) 質的研究 (帰納的研究) の評価 4) 研究論文の論評の視点	講義			
9.10.11	9 研究論文演習 (各教員)	演習			
12.13.14	10 看護研究発表・聴講	演習			
1 5	総括・試験				
評価方法	研究論文 (発表) 50 点 試験 50 点				
必携図書	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院				
参考図書	学研 黒田裕子の看護研究 step by step				
その他					

授業科目	看護技術の統合	講師名	専任教員	単位	1 単位
				時間数	30 時間
		実務経験	専任教員 (看護師)	履修年次	3 年次
				授業形式	講義
科目目標	1 複数の事例の優先順位を考えた行動計画を立案し、実施できる。 2 臨床現場で実施頻度の高い診療の補助技術を、モデルを用いて安全かつ確実に実施することができる。 3 モデルを用いて、症状を観察し適切なフィジカルアセスメントを実施することができる。				
授業概要	医療現場の状況により近づけるよう、多重課題に対応できる基本的技術を習得できるよう演習を中心に学びます。今まで学んだ基礎分野・専門基礎分野、専門分野Ⅰ及びⅡで習得した基礎的な知識・技術を統合し課題解決に取り組んでほしい。				
回数	授業内容				教育方法
1	1 複数事例への行動計画の立案 1) 授業内容の説明 2) 複数事例の情報提示 3) 複数事例の情報整理 (グループワーク)				講義・演習
2	4) 複数事例の全体像、問題点、目標の明確化 (個人ワーク) 5) グループ内で各自の全体像の発表及びグループ全体像の作成				演習
3	6) グループ全体像の発表及び共通理解及び加筆・修正				演習
4	7) 優先度を考えた個人の行動計画の立案				演習
5	8) 個人行動計画の発表及びグループ行動計画の作成				演習
6	9) ロールプレイングのシナリオ作成・役割分担決定				演習
7	10) ロールプレイングと振り返り				演習
8					
9	11) 発表とまとめ				演習
10	1 モデルを用いた看護技術の実践 1) 診療の補助技術の実践				演習
11	(1) 点滴の準備と接続 (2) 静脈血採血				
12	2) フィジカルアセスメント技術の実践				演習
13					
14	3) 発表とまとめ				演習
15					
評価方法	出席、参加状況、提出物、課題の内容				
必携図書	今まで学んだテキスト				
参考図書	今まで学んだテキスト				
その他					

授業科目	基礎看護学実習 I	講師名	実習担当教員	単位	1 単位
				時間数	45 時間
				履修年次	1 年次前期
				授業形式	実習
科目目的	病院における看護の対象をおよび看護の実際を知り、日常生活場面をとおして看護の対象について理解を深める。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院の概要や病棟で看護師はどのような活動をしているか知る。</li> <li>2 入院患者の生活の実際を知る。</li> <li>3 患者との良好な関係を築くためのコミュニケーションの重要性に気づくことができる。</li> <li>4 患者とのコミュニケーションを通して、ニーズに気づくことができる。</li> <li>5 患者に必要な日常生活援助について考えることができる。</li> <li>6 実習を通して、看護学生としての基本的な態度を身につけることができる。</li> </ol>				
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院施設で実習を行う。</li> <li>2 グループを編成し、1 病棟に 1 グループ配置する。</li> <li>3 看護師と行動を共にして臨床看護の実際を見学する。</li> <li>3 1 名の学生が 1 名の患者を受け持ち、患者とコミュニケーションを図る。</li> <li>4 看護師が行う日常生活援助に参加する。</li> <li>5 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> </ol>				
評価方法	習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	基礎看護学領域で使用したテキスト				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	講師名	実習担当教員	単位	2単位
				時間数	90時間
				履修年次	1年次後期
				授業形式	実習
科目目的	患者のニーズを判断し、対象にあった日常生活技術を学ぶ。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 患者のニーズが把握でき援助の必要性が理解できる。</li> <li>2 患者にあった日常生活の援助技術が実施できる。</li> </ol>				
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院施設で実習を行う。</li> <li>2 グループを編成し、1病棟に1グループ配置する。</li> <li>3 基礎看護学実習Ⅱでは、1名の学生が1名の患者を受け持ち患者についての看護を展開する。</li> <li>4 受け持ち患者の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導のもと実施する。</li> <li>5 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	基礎看護学領域で使用したテキスト				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					

授業科目	地域・在宅看護論実習 I	講師名	実習担当教員	単位	1 単位
				時間数	45 時間
				履修年次	2 年次後期 ～ 3 年次後期
				授業形式	実習
科目目的	<p>地域で暮らす人々を対象とした多様な場での看護の役割を理解し、看護実践を学ぶ。</p> <p>地域包括支援センターで地域包括ケアシステムの中での看護の役割を学ぶ。</p>				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域で暮らす人々の生活を理解し、生活の中での支援の必要性を学ぶことができる。</li> <li>2 地域で生活する人の健康問題を支える活動が理解できる。</li> <li>3 保健・医療・福祉に関わる一員として、必要な基本姿勢、態度が理解できる。</li> <li>4 多職種と連携・協働する中での連携を理解し、継続的に支援することの必要性を説明できる。</li> <li>5 対象の尊厳を守り、価値観・生活信条を尊重した看護を考えることができる。</li> </ol>				
教育方法	地域包括支援センターで実習を行う。				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	<p>在宅看護論 医学書院</p> <p>地域医療を支えるケア メディカ出版</p>				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ	講師名	実習担当教員	単位	2単位
				時間数	90時間
				履修年次	2年次後期 ～ 3年次後期
				授業形式	実習
科目目的	疾病や障害を持ちながら在宅で療養する人々とその家族が、住み慣れた地域で尊厳を持って自分らしい生活が送れるための看護の基礎的能力を学ぶ。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健・医療・福祉連携における、在宅看護の位置づけと役割が理解できる。</li> <li>2 健康問題解決に必要な地域の保健・医療・福祉サービスの特徴と活用方法を理解できる。</li> <li>3 在宅療養者・家族の特徴を理解できる。</li> <li>4 在宅療養者・家族の状態と生活条件に適した看護を考えることができる。</li> <li>5 多職種と連携・協働する中で看護の専門性を理解できる。</li> </ol>				
教育方法	1 訪問看護ステーションで実習を行う。				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	在宅看護論 医学書院 地域医療を支えるケア メディカ出版				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					

授業科目	成人・老年看護学実習 I	講師名	実習担当教員	単位	2単位
				時間数	90時間
				履修年次	2・3年次
				授業形式	実習
科目の目的	周手術期にある成人期・老年期の患者の特徴を理解し、生命維持、健康回復への援助を学ぶ				
科目目標	1 周手術期にある成人期・老年期の患者の特徴が理解できる。 2 周手術期にある患者の健康状態を考え、患者の望ましい状態について理解できる。 3 手術を受ける成人期・老年期の患者の健康状態の変化を予測し、手術後の援助できる。 4 手術を受ける成人期・老年期の患者・家族の不安及び苦痛への援助ができる。 5 周手術期にある、成人期・老年期の患者の看護実践を通して看護の役割を明確にできる。				
教育方法	手術療法を受ける対象を受け持ち、術前、術中、術後の看護を実践する。 1 病院施設で実習を行う。 2 グループを編成し、1病棟に1グループを配属する。 3 学生1名につき1人の患者を受け持ち看護を展開する。 4 受け持ち患者の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導の下で実施する。 5 受け持ち患者の手術を見学する。 6 手術後受け持ち患者が集中治療室に入室する場合は集中治療室での看護を見学する。 7 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	成人看護学 周手術期看護論（ヌーヴェルヒロカワ） 系統看護学講座専門分野 成人看護学②呼吸器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学③循環器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑤消化器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑧腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑨女性生殖器（医学書院） 病気が見える呼吸器、循環器（医療情報科学研究所） 老年学、老年看護学領域で使用したテキスト系統看護学講座（医学書院） 系統看護学講座専門分野 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座専門分野 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 老年看護学②高齢者看護の実践（メディカ出版） カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術（医歯薬出版）				
参考図書	必要に応じて紹介する				
その他					

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅱ	講師名	実習担当教員	単位	2単位
				時間数	90時間
				履修年次	2・3年次
				授業形式	実習
科目の目的	成人期及び老年期における対象の健康レベルに応じた看護の特徴を理解し、障害の受容、生活の再構築に向けた援助を学ぶ。				
科目目標	1 成人期及び老年期の対象の健康レベルや機能障害を持つ患者の特徴が理解できる。 2 患者・家族に起こりやすい問題が理解できる。 3 患者の状態を考慮し、望ましい状態について理解できる。 4 障害された機能に応じた生活の再構築に向けての援助ができる。 5 患者の安全に配慮できる。 6 疾患や障害が患者・家族にもたらす不安・苦痛への配慮ができる。				
教育方法	運動機能に障害（整形外科・脳神経外科）のある患者の回復過程の看護を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院施設で実習を行う。</li> <li>2 グループを編成し、1病棟に1グループ配置する。</li> <li>3 1名の学生が1名の患者を受け持ち、看護を展開する。</li> <li>4 受け持ち患者の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導のもと実施する。</li> <li>5 生活の再構築に向けて患者指導を行う。</li> <li>6 リハビリの実際を理解する。</li> <li>7 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	系統看護学講座専門分野 成人看護学②呼吸器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑥内分泌・代謝（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑦脳・神経（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑩運動器（医学書院） プチナース BOOKS 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（照林社） 病気が見える（呼吸器、脳神経）（医療情報科学研究所） 系統看護学講座専門分野 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 老年看護学②高齢者看護の実践（メディカ出版） カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術（医歯薬出版）				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅲ	講師名	実習担当教員	単位	2 単位
				時間数	90 時間
				履修年次	2・3 年次
				授業形式	実習
科目の目的	成人期及び老年期の健康レベルに応じた苦痛・死への不安がある患者を理解し、全人的苦痛の緩和のための援助を学ぶ。 慢性期にある患者のセルフマネジメントに向けた援助を学ぶ				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 成人期及び老年期の苦痛・死への不安がある患者・家族の特徴が理解できる。</li> <li>2 慢性期・終末期にある患者・家族に起こりやすい問題が理解できる。</li> <li>3 患者の状態を考慮し、望ましい状態について理解できる。</li> <li>4 患者の自己決定を尊重し、症状を緩和する援助ができる。</li> <li>5 慢性期患者の社旗復帰・セルフマネジメントへの援助が来出る。</li> <li>6 患者・家族の QOL を考慮した態度がとれる。</li> <li>7 自己の死生観を持つことができる。</li> </ol>				
教育方法	成人期及び老年期にある終末期患者（がん患者、慢性期疾患）の看護を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院施設で実習を行う。</li> <li>2 グループを編成し、1 病棟に 1 グループ配置する。</li> <li>3 1 名の学生が 1 名の患者を受け持ち、看護を展開する。</li> <li>4 受け持ち患者の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導のもと実施する。</li> <li>5 実習を通して自己の死生観を培い、発表することで学びを深める。</li> <li>5 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論（ヌーヴェル ヒロカワ） 系統看護学講座専門分野 成人看護学②呼吸器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑤消化器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学④血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座専門分野 成人看護学⑦脳・神経（医学書院） プチナース BOOKS 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（照林社） 系統看護学講座専門分野 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座専門分野 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 老年看護学②高齢者看護の実践（メディカ出版） カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術（医歯薬出版）				
参考図書	必要に応じて紹介する				
その他					

授業科目	老年看護学実習	講師名	実習担当教員	単位	2単位
				時間数	90時間
				履修年次	2・3年次
				授業形式	実習
科目の目的	老年期にある対象を総合的に理解し、その人らしさや生活機能に合わせた看護を実践できる。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 老年期にある加齢変化を総合的に理解できる。</li> <li>2 高齢者の特徴を理解し、科学的根拠に基づいた援助が実践できる。</li> <li>3 高齢者の価値観や信条を尊重した態度で関わるができる。</li> <li>4 高齢者を取り巻く人々を理解し、多職種との協働・連携を理解できる。</li> <li>5 看護実践をとおして自己の老年観を深めることができる。</li> </ol>				
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護老人保健施設又は介護老人福祉施設で実習を行う。</li> <li>2 グループ編成し、1施設に1グループ配置する。</li> <li>3 施設で生活している高齢者を1名受け持ち、高齢者の特徴をふまえ、日常生活の援助を行う。</li> <li>4 実習をとおして、多職種との協働・連携について理解する。</li> <li>5 受け持ち高齢者の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導のもと実施する。</li> <li>6 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	老年学、老年看護学領域で使用したテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論（医学書院） カラー写真で学ぶ高齢者の看護 技術（医歯薬出版）				
参考図書	必要に応じて紹介する				
その他					

授業科目	小児看護学実習	講師名	実習担当教員	単 位	2単位
				時間数	90 時間
				履修年次	2・3年次
				授業形式	実習
科目の目的	小児期にある対象とその家族を理解し、成長・発達段階、健康状態に応じた看護が実践できる。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の成長・発達段階を理解できる。</li> <li>2 健康障害のある小児の特徴を理解し、健康回復への適切な援助ができる。</li> <li>3 健康障害のある小児の家族状況を理解し、適切な援助を考えることができる。</li> <li>4 保健と医療・福祉・教育の機能と連携を知り、看護の役割を考えることができる。</li> <li>5 対象の看護をとおして、小児の人権と看護を考えることができる。</li> </ol>				
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院施設で実習を行う。</li> <li>2 グループを編成し、1病棟に1グループ配置する。</li> <li>3 小児看護学実習では、1名の学生が1名の患者を受け持ち、看護を展開する。</li> <li>4 受け持ち患者の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導のもと実施する。</li> <li>5 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	小児看護学領域で使用したテキスト				
参考図書	必要に応じて紹介する				
その他					

授業科目	母性看護学実習	講師名	実習担当教員	単位	2単位
				時間数	90時間
				履修年次	2・3年次
				授業形式	実習
科目の目的	母性看護の対象を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、生命の尊厳について学ぶ。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠期を健康に過ごすための看護を理解できる。</li> <li>2 正常な分娩経過を理解し、分娩進行に応じた看護の実際が理解できる。</li> <li>3 産褥経過が順調に進むための援助、および親子（母子・家族）関係確立への援助ができる。</li> <li>4 新生児の生理的变化を理解し、子宮外生活に適応するための援助ができる。</li> <li>5 ライフサイクルにおける女性の健康問題を知り、看護の役割を考えることができる。</li> <li>6 母子における保健・医療・福祉との連携や多職種との協働を理解できる。</li> <li>7 生命の尊さを感じ、自己の母性・父性,親性について深めることができる。</li> </ol>				
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院施設で実習を行う。</li> <li>2 グループを編成し、1病棟に1グループ配置する。</li> <li>3 母性看護学実習では、1名の学生が1名の妊産褥婦と新生児を受け持ち対象の看護を展開する。</li> <li>4 受け持ち対象の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導のもと実施する。</li> <li>5 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	母性看護学領域で使用したテキスト				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					

授業科目	精神看護学実習	講師名	実習担当教員	単位	2単位
				時間数	90時間
				履修年次	2・3年次
				授業形式	実習
科目の目的	精神に障害をもった人を理解し、個別的な看護を実践することができる。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神に障害をもった人を理解し、信頼関係を結ぶことの重要性を認識できる。</li> <li>2 精神に障害をもった人への日常生活援助について理解し実践できる。</li> <li>3 精神障害をもつ対象の倫理的配慮の重要性を理解できる。</li> <li>4 精神に障害をもった人との関わりをとおして自分自身を見つめることができる。</li> <li>5 地域で生活している障害をもった人の支援を理解することができる。</li> </ol>				
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病院で1週間、社会復帰施設で1週間、実習を行う。</li> <li>2 グループを編成し、1病棟に1グループ配置する。社会復帰施設は施設毎に1～5人を配置する。</li> <li>3 病院実習では、1名の学生が1名の患者を受け持ち、看護を展開する。</li> <li>4 受け持ち患者の看護援助については、実習指導者または教員からの助言・指導のもと実施する。</li> <li>5 カンファレンスの具体的運営は学生主体で行い、学生同士で学びを共有する。</li> <li>6 社会復帰施設では、実習指導者が施設のオリエンテーション概要を説明し利用者との関りを通して社会復帰について考える</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	精神看護学領域で使用したテキスト				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					

授業科目	統合実習	講師名	実習担当教員	単位	3単位
				時間数	90時間
				履修年次	3年次
				授業形式	実習
科目の目的	看護・医療チームの一員としての体験、複数患者の看護、夜間実習を通して、看護の実践力を身につける。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 多職種との協働の中で、チームリーダーやメンバーの役割を理解できる。</li> <li>2 看護管理の実際を理解できる。</li> <li>3 一勤務帯を通して複数患者を受け持ち、援助の優先順位と時間管理を考慮した看護実践ができる。</li> <li>4 夜間における患者の療養生活とその援助方法を理解できる。</li> <li>5 病棟における感染対策及び医療安全の実際を理解できる。</li> <li>6 実習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。</li> </ol>				
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護師と共に行動するシャドー実習を2日間実施する。</li> <li>2 看護師長と行動を共にする管理実習を実施する。</li> <li>3 複数患者の受け持ちを4～5日間実施する。</li> <li>4 夜勤看護師と行動を共にする夜間実習を1日実施する。</li> <li>5 病院及び病棟で実施している感染対策と医療安全について臨床講義を受ける。</li> <li>6 実践活動外学習を活用し看護師としての自己の課題を明確にする。</li> </ol>				
評価方法	実習評価項目に基づき、看護実践及び記録類による評価：100%				
必携図書	全ての領域で使用したテキスト				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
その他					